

Cosmos

The Bulletin of the Faculty of Global Communications



同志社大学グローバルコミュニケーション学部機関誌

No.3

2014年3月

cosmos ['kɒzmɒs]

—①よく秩序づけられた宇宙。思考体系。

②キク科の観葉植物。

…花言葉 「調和」

cosmo- ['kɒzməʊ]

—（接頭語） 世界や宇宙に関する。

私は一つの可能性です。

私たちは無限の可能性です。

限り無く広がる世界の中で

調和をもたらす存在に成らんことを願い

これを題名とします。

References

Oxford Dictionaries. (<http://oxforddictionaries.com/definition/cosmos>)

流希望海個自会

忙

界実

道進

動漢

未

樂波

交

輝友

努空

笑

Cosmos

No.3

— これらの漢字は、GCの学生たちが、
グローバル・コミュニケーションを
漢字一文字で表したものです。—

はじめに

昨年の第2号に引き続き、グローバル・コミュニケーション学会発行の学部機関紙 *Cosmos* 第3号をお届け致します。本誌は多くの方々に本学部のことを知っていただくため、また、学部内学生の情報発信を目的に一昨年の学部の開設と共に毎年発刊しています。

グローバル・コミュニケーション学部は2011年4月に同志社大学の13番目の学部として誕生いたしました。本学部は「世界に通じる対話力」をキーワードに単に外国語を話すことが出来るだけではなく、論理的に意見を述べる能力や諸問題への対応力を養い、真の国際人を育てる事を目的としています。学生は充実したカリキュラムの中で、確かな成長を感じながら日々勉学、活動に励んでいます。3年目を迎えた本学部にとって、過去2年と大きく違うのは、1年間のStudy Abroadを無事終えて帰国した3回生がキャンパス内にいることでしょう。グローバル・コミュニケーション学部専用の自習室には先輩方の背中を見ながら刺激を受けたり、留学への熱意を強めたりする1回生と、自らが海外で学んだことを伝える3回生とのコミュニケーションが活発に行われ、活気のある空間となっています。

英語に“babe in the woods”という言葉があります。日本語にすると、「井の中の蛙大海を知らず」という意味になります。私がグローバル・コミュニケーション学部に入學した当初、まず初めに考えたのがこの言葉でした。日本各地から集まった初めて出会う仲間と一緒に学ぶことは、私にとって高校という井戸を飛び出し、大学という大海へ飛び込んだような気分でした。1年間時に楽しく、時に苦しく勉強やその他の活動に励んだ今、今度は大学が私の井戸となろうとしています。世界という大海から戻られた先輩方を見て、今度は私たちの番だと希望に胸を膨らませる一方、井戸を飛び出していく不安もあります。

本誌は、世界という大海に飛び出そうとしている1回生と、そこから戻られ更なる大海を目指している3回生、そして、井戸と大海の橋渡しをしてくださる先生方とで作り上げた冊子です。アンケートに協力していただいた学生みなさん、快く対談を引き受けてくださった先生方、ありがとうございます。そして、このような貴重な体験をさせていただけたことに心から感謝いたします。

最後に *Cosmos* 第3号を手にとっていただきありがとうございます。皆さんが新たな大海を目指す際に本誌が少しでもお役に立てれば幸いです。それでは最後までお楽しみください。

英語コース1回生 井上 諒一

Cosmos 第3号

目次

報告

E.N.G.～学生の、学生による、学生のための一大イベント♪～	4
学生たちで手掛けたクローバー祭	5
私たち GC 学部生による GC 学部生のための様々なイベント	6
1 期生の就職活動のイマ	7
International Youth Leadership Conference に参加して	10
インターンシップ報告	12
◆コラム◆～国際都市・上海のタクシー事情～	14
◆コラム◆～上海で活躍する日本人～	17

対談 「留学とは」をテーマにコースを超えて集合！

立場、年代を超えた 1 回生と先生による対談	20
教えて先輩！経験者から学ぶ 留学への不安解消	26
留学を経て、世界とつながる 3 回生による対談	34

アンケートから読み解く！ GC 学部の実態！？

生活編	42
勉強編	49
留学編	52
先生方に聞きました！	56

E.N.G.

～学生の、学生による、学生のための一大イベント♪～

私たちは、2013年の8月10・11日の2日間、グローバル・コミュニケーション学部（GC学部）としての初イベントである英語合宿を、滋賀県琵琶湖リトリートセンターにて開催しました。

名前を「E.N.G. (English Native Gasshuku)」とし、本学部らしく、3回生に対しては「英語力強化」のため、1回生に対しては「冬から始まる留学に向けての英語への慣れ」をつけるため、また何よりもGC学部がより結束力の強い学部となるように「親睦会」としての場として設定しました。

開催にあたって、スタッフ総勢約20人でイベントの運営に取り組み、当日は1・3回生合わせて122名が参加しました。イベントを通して、自由時間以外は英語を話すことを義務付けてゲームやアクティビティを楽しみました。



GC 最高～!!



〈文責〉上野 叶恵

学生たちで手掛けたクローバー祭

11月3日(日)・4日(祝)に京田辺キャンパスで行われたクローバー祭において、GC学部主催で「外国語で遊ぼう」と「SA わたしのベストショット」の2つの企画を行いました。

※ SA…Study Abroad (留学プログラム)

「外国語で遊ぼう」は、昨年と同様、外国語を歌やゲームで親しみながら学ぶという企画です。今年は韓国語や中国語だけでなく、英語・フランス語・ドイツ語の3言語が新たに加わりました。こちらは11月3日の1日でしたが、50名程の来場者に、私たちが作った冊子を用いて挨拶や数字など簡単な内容を学んでいただきました。また、ゲームをしたり、歌を歌ったりしてそれぞれの言語に慣れ親しんでいただきました。来ていただいた方の多くは子供たちで、様々な外国語を楽しく学んでいました。



「SA わたしのベストショット」では、「グローバル社会の今」をテーマに、英語コース・中国語コースの現3回生が2年次の留学中に撮影した写真と、日本に留学中の日本語コース3回生が日本で撮影した写真合計120枚を飾り、2日間で約220名の来場者の方に来ていただきました。さらに来場者に投票をしていただき、スマイル部門・ビューティフル部門・クリエイティブ部門の3部門で1位から3位までの順位を決めました。学生が帰国直前に撮ったホストファミリーと



の最後の1枚の写真を見て涙ぐむ方がおられるほど感動的な写真や、また度胆をぬくような面白い写真など個性豊かな写真が教室一面に並びました。自分たちで言うのもなんですが、1枚1枚に学生一人ひとりの留学物語が詰まっており、とても感動的で素晴らしいものとなりました。

来年以降もこれらの企画がさらにより良いものとなりながら続いていくことを願うばかりです。

〈文責〉 菅井 翼

私たちGC学部生による GC学部生のための様々なイベント

～ Yay Go! Eigo!! ～

英会話アクティビティー

留学を経験した3回生と留学を控えた1回生、そして同志社大学の京田辺キャンパスに来てくれている様々な国からの留学生と共に週に1回、学部の自学自習室で1時間程度英語を使ったアクティビティーやディベートなどを行っています。ハロウィンパーティー等を企画したりして留学生とGC生をつなぐ活動をしています。英語を通して新たな発見や出会いがあり、私たちが卒業しても続けてもらいたいアクティビティーです。



Fountain Commons

社会で起きる問題に、模範解答なんてありません。

知識と経験をフルに使って、考え抜く。Fountain Commons（知の泉）は、「社会に出る前に学ぶべき事」をテーマに、学生主体で企画・運営する勉強会です。毎週、学生間で主に時事問題について知識を発信・共有し、社会経験豊富な教員も交えて議論します。特別講師による講演会も開催しています。

興味がある方！ぜひ一緒に「本当の学びの場」を作りましょう！

キャリアセミナー

2013年11月5日（火）英語コース3回生6名が企画や運営の中心となって、学部を対象としたキャリアセミナーを開催しました。講師には野島繁明さん（スローガン株式会社）と土井薫子さん（同志社大学法学部4回生）を招き、選考におけるグループディスカッション講座、また今後の日本社会と女性のキャリアについてお話しいただきました。当日は学部の約半数もの学生が参加し、将来のキャリアについて考えるいい機会となりました。



〈文責〉嶋津あすか

1 期生の就職活動のイマ

私たちグローバル・コミュニケーション学部は2011年に設立され、私たち3回生は学部の一期生として2015年3月に卒業を迎えます。就職活動が2013年の12月から本格的に始まり、就職活動真っ只中の英語コースと中国語コース3回生の5名に彼らのイマ、そしてこれからを聞いてみました。

2014年1月17日 12:30～

【出席者】

コーディネーター：菅井 翼（英語コース）

嶋津あすか（英）

対談者：眞田 翼（英） 以下：眞

千田 有沙（英） 以下：千

上田 志保（英） 以下：上

所 綾子（中国語コース） 以下：所

岡野 真歩（中） 以下：岡



（1）今はやはり忙しいですか？

英語コース：思ったほど忙しくはないです。両立は少し大変だけど、他の学部は2月に入ってもテストがありますが、私達はテストが授業期間内にほとんど終わるので、まだ良いと思いますよ。セミナーも自分が予約すれば忙しいけど、これは本当に人によると思います。

中国語コース：就活そしてレポート、テスト、何よりゼミの卒論の概要の準備に追われています。卒論の概要を4枚にまとめて30冊の文献を用意しないといけないんです。1月末は企業のエントリーシートの提出締め切りが多くて、テストと両立できるのか…。でも面接やウェブテストの練習もしたいし…。とにかく授業が毎日あるので大変です。

岡—とりあえず興味のあるセミナーには参加しています。

所—12月には興味のないところもみていて、今は徐々に絞ってきている感じです。

千—広く見すぎたらパンクしそうなので、行きたい業界に向けて今は練習でいろんな所を受けてみようかなって感じです。

眞—12月前から行きたい業界は決まっていたので逆に今は興味がないところを見てなぜそこに行きたいのか、より行きたい理由を固めていっているところです。

上—ここ2週間ほど就活と授業、テストとの両立に苦戦していました。前まではメーカー志望だったのですが、他も見たいほうが良いかなと思って見ているところです。

(2) どの業界を目指していますか？なぜそこを目指すようになったのですか？



眞—メーカー、特に製造業、具体的には重機メーカーです。日本の技術力を世界に発信したいんです。2年次にアメリカに留学したことが「日本」という国を意識するきっかけになって、将来自分が日本に役立つことができたらと思うようになったからです。

千—航空業界です。小さい頃アメリカに住んでいて、日本とアメリカを行き来する機会が多くて、たくさんのCAと関わるうちに憧れるようになりました。



所—インフラ系を見ています。北京に留学しているときに北京の地下鉄に乗って北京の全体を見ること、全部の駅で降りることを趣味にしていたその時、人の生活を支えて、命を乗せている鉄道に魅力を感じました。なので、今は鉄道業界と、鉄道を作っている会社、あとは鉄道の車両、部品のメーカーも見えています。

岡—総合電機、私もインフラ系を見ています。日本の技術をどや！みたいな感じで世界に広めていきたいと思っています。台湾に留学したことがきっかけなのですが、「日本人」よりも「岡野真歩」として見られて、日本人はすごいけど真歩は…というように見られ、とても悔しかったんです。もっと日本のすごいところを世界に広めて大きな影響を与えられる「すごい岡野真歩」になりたいです。





上—まだいろいろ見えています。けれど、日用品メーカーに前から惹かれています。それはグアムへ初めての海外旅行へ行った時のこと。スーパーマーケットを訪れた時、日本のスーパーには置かれていないものを発見したり、配置が違っていたりしてとても魅了されたからです。ゼミも文化について学んでいて、日用品やスーパーに置いてあるものに関わることができたら、一般の人の生活や文化に携わることができると思います、日用品メーカーに興味を持っています。

(3) 将来したいことはなんですか？



千—ファーストクラスのお客様に対応できる CA になって、最終的には結婚して海外のどこかに住みたいと考えています。やはりそれは私の父が今もずっとアメリカに住んでいて、年に 1 回はアメリカに行き英語を話している時の自分が一番楽しめているかなと感じるからです。将来もそういう環境に身を置きたいと考えています。

所—働くお母さんになりたいです。結婚もして、子どもも欲しい。働くお母さんとして子育てしたい。海外にも行きたいと考えています。

岡—ずっと働いていきたいです。でも子どもができれば、駐在で 3 年から 5 年ほど海外で住み、とにかく子どもを外国に住ませたいです。日本人としての素質も持ちつつ、幼い頃から視野を広げてほしいからです。

眞—留学で心から尊敬できる人に出会えたので、英語をツールとして使ってその人みたいに自分も人に影響を与えられる人間になりたいです。

上—とにかくいろんな人に会いたいです。留学とか、旅行とか、日本の中でも自分とは違った考えを持った人にこれからも出会っていきたいです。

(4) 最後にメッセージ

眞—この学部はすばらしい！

千—これから大学生活は新たに好きなことを発見したり、自分の好きなことをより追求してほしいと思います。

所—今の自分が未来の自分にもずっとつながっているのを今を一生懸命生きて、後悔しないように頑張ってください。

岡—自分の限界を決めずに色んなことにチャレンジしてほしい。とにかくいろんな世界に触れてほしい！

上—自分のやりたいと思ったこと、興味を持ったことにはチャレンジしてみしてほしいと思います。

International Youth Leadership Conference

に参加して

ヨーロッパのチェコで2014年1月5～10日に行われた「国際ユースリーダーシップ会議」に参加した英語コース3回生の青木さんとファンボさんにそこでの経験、そして学んだことについて聞きました。

2014年1月17日 13:15～

【出席者】

コーディネーター：菅井 翼・嶋津あすか

対談者：青木 一葉（英語コース）以下：青

ファンボ ジョンウン

（英語コース）以下：フ



（１）この会議の主旨は？

「国際的なリーダーシップを育む」

大学生以上の人たち 35 名が参加していた。

国際情勢や法律を学び、EU や国連をシミュレーションし国際情勢の感覚を身につけることを目的としている。

（２）具体的にどんなことをしましたか？

①模擬国連 議題：「シリア問題」

まずはシリア問題を勉強する時間が設けられ、皆で勉強した。一人ずつ国に分けられ、常任理事国と非常任理事国に分かれた。担当の国を決められ、その国の立場や介入するかしな
いかが書いてある紙をもらって熟読した。ディスカッションを何度も行い最終的に一分間のスピーチを行った。裁判官は一旦その部屋を退出。その間に報道記者や新聞記者になりきって、裁判官に対してカメラやマイクを向けて質問をした。

②国際刑事裁判所の模擬裁判

議題：「ルワンダの内戦」

③ EU の模擬欧州会議



それ以外には、チェコにある議会や大使館を訪問したり、実際の外交官と話す機会があった。アムステルダムやプラハ、そして今は博物館となっているアンネ・フランクが実際に住んでいた家も訪れた。

夜に Culture Night というそれぞれの文化を紹介しあうちょっとした催し物があり、南アフリ

力の結婚式やロシアのダンスを実際に体験し、とても面白かった。私たちは日本のビジネスの場面でのお辞儀の仕方や名刺の渡し方などを英語で発表した。

(3) なぜ参加したのですか？

英語コースの授業で Advanced Communicative Performance という授業があり、その授業の教授に紹介してもらいました。授業で国連のことについて学んでいて授業の一環として行ったので奨学金も頂きました。

2年次に留学した後、特にこれということをしていなくて自分の力を試してみたかったので参加しました。

(4) 印象に残ったことはありますか？

フー 私は日本と韓国を行き来しているし、国際的だと思っていたのですが、この会議に参加したことで自分はまだまだだと感じました。オーストラリアからメキシコに片道チケットだけ買ってメキシコで仕事を見つけて暮らしている人に出会ったり…。会議に行く前は就職活動のことばかり考えていたけれど、これから時間をかけて将来を考えていこうと感じるようになりました。



青ー 一番良かったのはいろんな人に会えたことです。アメリカンスクールに通い、今はドイツの大学院で勉強中のトリリンガルなタイ人、15歳でソ連に旅行に行ったアメリカ人、ヒマラヤに登ったことがある人など…。本当に魅了され、インスパイアされました。2年次にアメリカに留学した時も本当にいろんな人に出会ったと思っていたけれど、まだまだだったんだと気づきました。プエルトリコ、ロシア、韓国、イギリス、オーストラリア、イスラエル、南アフリカ、パキスタン、インドネシアなど10か国以上の人たちがいましたから。すごい人ばかりだったので落ち込みましたが、これをバネにして頑張りたいと思います。

(5) これからどう活かしていきたいと考えていますか？

フー グローバルな世界で自分の居場所をいつかは見つけたい。しかしそれにはまず英語が必要なのだと痛感した。会議中、本当に英語が通じなくて自分の英語はまだまだなのだと感じ、もっと英語を勉強したいと思いました。

青ー 私もブリティッシュアクセントが全然聞き取れませんでした！イギリス大使館を訪れたのですが…。早口だったしアクセントがすごく聞き取れなかったです。もうちょっと英語ができれば、と思いました。

(6) 後輩におすすめしますか？

両方ー 絶対お勧めです！確かにお金はかかりますが、それくらいの価値はあります。自分の人生観が変わる経験ができると保証します！

インターンシップ報告

日本語コース 3 回生 劉 瀟瀟

3 年次春学期の「インターンシップ A」という授業について報告します。事前講義では、ビジネスマナー、日本企業の特徴など社会人としての知識を学び、夏休みに就業現場に行き、仕事の一部を体験しました。インターンシップの受入先は、大学からの趣旨を受け入れ、就業体験を提供してくれる企業、機関及び団体でした。学生は金融、メーカー、マスコミ、サービスなどの業種から自分の関心のある企業を選び、約 1 週間から 4 週間かけて現場で働くというプログラムでした。

私は実習に行く前に、次の 2 つの目標を設定しました。まず、1 つ目は職場における社会勉強をすることです。実際に職場で働かせてもらうことにより、日本の企業文化を理解したいと思いました。2 つ目の目標は、大学で学んだ専門知識をどのように職場で活かせるのか知ることです。つまり、仕事やキャリアに関わる自分の可能性を見極めたいからです。

私はインターンシップ先として、「リーガロイヤルホテル」を選びました。それは、まず、私が日本のサービス業に関心を持っていること、次に、私が接客業のアルバイトの経験があること、そして、実習先は海外事業も展開しているという 3 つの理由からです。私の場合、2013 年 8 月から 9 月にかけて、20 日間の実習を経験しました。インターンシップの実習を通して学んだことは、日本の企業文化、とりわけ、サービス業務についての理解が深まったことと、そして、自己評価の再認識をすることによって、自分の将来を描くようになったことです。以下、具体的に述べていきます。

インターンシップ実習を通じた成果として、まず、1 つ目に、サービス業に対する理解が深まったことが挙げられます。サービス業は多様な客のさまざまな要求に素早く対応することが肝心です。異なる年齢層の客に対する言葉づかい、会話を円滑にするためのあいづちなど言語運用スキルから、お辞儀の仕方、電話対応のマナーなどビジネス場面でのルールまで、幅広い知識とその運用能力が必要です。

また、サービス業は、言われた通りに仕事するだけでは不十分であり、臨機応変に対応する能力が必要であることもわかりました。例えば、客からのクレームに対する対応では、相手の怒りを鎮めるだけでなく、ホテル側の尊厳も傷つけないように対応しなければなりません。こうした対応力をつけるには、コミュニケーション力、協調性、冷静な状況分析、判断力などの能力が求められます。そこで、実習では、正社員の後ろにつき、クレーム対応場面での適切な解決方法を学びました。また、クレーム対応の時、自分がもし同じ状況に直面すればどうすべきかと、心の中でシミュレーションを試みました。その後、先輩方にその対応方法が適切かどうか教わることを繰り返しました。もちろん、短時間でサービス業の全てを理解することは不可能ですが、将来、自分が社会人になった時の心構えができました。

2 つ目に、インターンシップ実習の中の失敗から、自分自身に対する理解と認識を深め、成長できた点です。まず、時間管理と体調管理が前よりできるようになりました。例えば、私が 10 分遅刻したことで、従業員同士の仕事に影響を及ぼしてしまった経験があります。仕事は、大学の授業と違い、遅刻は自分だけの問題では済まないことを学びました。なぜなら、職場では一

人だけで仕事をしているわけではなく、皆で相互に仕事を進めています。そのため、一人の仕事が遅れると、他の人にも影響を与えてしまうのです。自分の体調管理と時間管理は、職場で働くときに一層重要になるのです。

インターンシップの実習で印象に残ったことは、次の2つです。1つ目は、ホテル従業員間の敬意溢れる雰囲気と仕事に対する真摯さです。例えば、客室サービス課の課長に教えていただいたホテル業に携わる者の心構えがあります。ホテルでは、一般客以外にも、他の従業員やホテルの取引先に対しても、サービス精神で接するという考えがあります。従業員同士の間でも、元気よく挨拶し、朝礼はもちろん、通路ですれ違った人や警備員の方々にも「おはようございます」と「お疲れ様です」と声を掛け合います。どんな辛い仕事でも、この一言で自分の心が温まり、サービス業に魅力を感じました。

次に、印象に残った2つ目は、従業員同士のチームワークです。例えば、狭い通路を2台の台車がすれ違う時、「お先にどうぞ」と譲り合うのはよく目にするシーンでした。その他にも、私が両手で料理を運んでいる時、他の従業員がドアを開けてくれたり、不注意で落としてしまった伝票を拾い、親切にポケットに入れてくれたりすることもありました。大勢のお客様がいらしても、いつも効率よく、和やかな雰囲気で仕事ことができました。さすが日本のサービス業だと肌で感じました。改めて、ホテルマンの様々な気配りに敬意を表したいと思いました。

インターンシップ実習全体を通じて、ホテルでの実習体験は、今後、社会に出てからの生き方を考えるきっかけになりました。仕事の楽しさと辛さは記憶に残ると同時に、社会人には何が求められるかも考えるようになりました。例えば、職場では教わるだけではなく、自ら積極的な姿勢を示さなければ、成長できないと強く感じました。そして、仕事では予想外の出来事や自分の能力範囲を超える問題が毎日起こっています。こうした事態には、周りの従業員と連携して取り組み、冷静に対応できるようにしなければならないと思いました。

約1ヶ月続いたインターンシップは、自分が設定した目標以上の成果をもたらしてくれました。仕事は人間の心身を鍛えると同時に、達成感を与えて、成長させてくれます。特に、私たち留学生にとっては、日本での社会実習は、グローバル人材に近づくための重要な一歩であり、貴重な体験でした。

◆コラム◆～国際都市・上海のタクシー事情～

今や立派な世界有数の国際都市となった中国の上海。有名な観光地も多数存在し、市街地に出ればオシャレなレストランやカフェ、バーが軒を並べる。そんな中、上海になくてはならない交通手段の一つがタクシーである。上海の道路には日本とは比べものにならない数のタクシーが走っている。みなさんも旅行で、仕事で、そして留学で上海に訪れたことがある、あるいは将来訪れることになるかもしれない。

みなさんは上海のタクシーと聞いてもピンとこないかもしれないだろう。ここでは上海のタクシーについて紹介したいと思う。

・タクシードライバーの星制度

上海では優秀なタクシードライバーに星が与えられる制度がある。この、ホテルやレストランのように星で評価されるタクシードライバーの星制度は日本では見られることはなく、中国国内でも上海にしか存在しない。星の数は0～5つ星で星の数が多ければ多いほど優秀なドライバーということになるが、4つ星、5つ星のタクシードライバーに遭遇することは極めて稀である。私がタクシーのドライバーから聞いた話であるが上海市内には約5万台のタクシーが存在していて、ドライバーはおおよそ2人で1台のタクシーを使用しており、上海のタクシードライバーの数は10万人を超えている。しかしその中でも5つ星のドライバーは80人ちょっとしかいないらしい。すなわち上海で5つ星のドライバーに遭遇する確率はきわめて低く、約0.08%ということになる。ちなみにホテルやレストランとは違い、ドライバーの星の数によって運賃が変わることはないのをご安心を。

ドライバーが星を得るためには年に1度の試験に合格しなければならない。試験内容は車両整備に関する知識やサービスマナー、観光名所についてである。ここに3つ星以上のドライバーの試験には日常英会話が加わる。ここで確認しておきたいのが意外にも道に詳しいかどうかは試験で問われないということである。しかし、星を取得するための受験資格には勤続年数が関係しているため、星付きドライバーが道に詳しいという考えは理にかなっているといえる。

星を獲得することはドライバーにもメリットが存在する。例えば、強生タクシーでは5つ星を獲得したドライバーには賞与として3000元、4つ星では2000元、3つ星でも2000元の賞与が与えられる。また大衆タクシーの場合は4つ星以上のドライバーを対象に過去3年間にクレームも事故もなかったものには海外旅行が賞与として贈呈される。



ちなみに私が5つ星ドライバーのタクシーに乗ったとき、運転手の接客態度は他のドライバーとは一線を画していた。私の目的地がとてもマイナーな場所でドライバーも知らなかったのであるが、道がわからなければ、「俺も勉強しなくちゃいけないから」と言ってタクシーを降りて道を聞きに行ってくれたり、積極的に私に話しかけて私を退屈させないように心遣いをしてくれた。ちなみに図の写真の撮影許可を取る際に「私の大学の学部機関紙で紹介したい」と説明するとすんなり

と快諾してくれた。星の数が多いほど運転手と楽しい時間を過ごせる可能性は高くなるといっても過言ではないだろう。

・上海タクシーぼったくり事情

外国人が中国でタクシーに乗る際に気を付けなければいけないのが、ぼったくりタクシーの存在である。ぼったくりタクシーの手口は様々で乗車の際にあらかじめ法外な運賃を提示してくるドライバーもいれば、乗車中にメーターを細工し乗客の降車時に運賃を通常より多く請求したり、わざと遠回りして料金を嵩上げしてくるドライバーもいる。しかし、ぼったくりタクシーの多くは後者の二つの手口で客からお金を取ろうとする。この手口を使われると私たち外国人だけでなく、中国人ですら騙されることがあるだろう。本当にぼったくりタクシーの存在は厄介である。

ではどうすればよいのか。一般的な対策として大手タクシー会社（大衆、強生、錦江など）に乗るようにし、えんじ色のタクシーには乗らないようにするのが良いとされる。これは客の評判をもとに立った噂で「えんじ色タクシーがぼったくりタクシーである」というのは上海在住の日本人の間でよく耳にする話である。しかし、私自身が大手タクシー会社でも不正に料金を請求してくる運転手に遭遇したし、大手タクシー会社にぼったくられたという人の話もよく耳にするので、結局は運転手の人間性の問題なのではないかと思う。私は大手タクシーでもえんじ色タクシーでも、乗車した感想としてほとんど変わりはないと感じた。しかし、赤色タクシーがよくないという噂はやはり気になる場所であるので乗車することになった際には念のためにタクシーのメーターに目を向けておく必要はあるであろう。そして、タクシー運転手が不正をしたと気づいたならばすぐに抗議をするべきである。言葉がわからない場合は自分は怒っていることをドライバーに意思表示し車を止めさせすぐに降りてしまうとよい。

また、白タクと呼ばれる個人タクシーも存在するが、存在そのものが違法であるのでこのタクシーには絶対乗ってはならない。正規のタクシーとは違い屋根に社名がついておらず、メーターも付いていないのでたとえ外国人であってもこれを見分けるのは容易である。

ちなみに大手タクシーというのは会社の保有車両数が1000台を超え、自社カラーを持っている（例えば、大衆タクシーの自社カラーは水色）ものを指す。一方で、えんじ色タクシーは保有車両数が200台未満の小企業タクシーのことで企業ごとのカラーを持たず、車両が全てえんじ色で統一されているためにこのように呼ばれる。

・タクシーで勉強！？

これはどこの国でも共通していることかもしれないが、上海にはとにかくおしゃべり好きなドライバーが多い。そして中国は日本に比べて格段に運賃が安い（中国の地域によって変わるが上海は初乗りで約240円）。それを利用することで語学留学をしている人や旅行を通じて語学力を伸ばしたい人にとってタクシードライバーは最高の練習相手になる。確かにおしゃべりが嫌いな運転手もいるかもしれないが、とにかくタクシーに乗ったならば、ただ乗っているだけでなく積極的にドライバーに話しかけることが大切である。私も必ずタクシーに乗る際には毎回ドライバーに話しかけて、コミュニケーションを図ろうとする。話題はドライバーによって様々だが、運転手のもちかけてくれた話題から話を展開させていくとよい。ドライバーとはお互いの国のこと、文化のこと、恋愛トークやさらには下ネタに至るまで幅広い話ができる（自分のタクシードライバーとしてのスキルを延々と話した運転手にはさすがに驚いたが）。また発音や文法のミスを正してくれたり、スラング表現を教えてくれる運転手もいる。このようにタクシーの運転手は語学を学びたい人にとって最高の勉強相手になる。

正直なところ上海のタクシーは日本のタクシーほど清潔でなく、接客態度も悪いと感じることが多い。車内は禁煙であるはずなのに平気な顔をしてタバコを吸い始めるドライバーもいる（一応、私に喫煙の許可はとったが）。まだ食事をしていないからといって乗車拒否をされることもある。

しかし、タクシー会社がそれぞれサービスマナーの向上に努めているのも事実である。大手タクシー会社の一つである錦江タクシーは、東京のタクシードライバーのサービスマナーを手本にしているという。外国語教育を社内教育の一環として行っている企業もある。明るく乗客と話をしてくれ、私たちを楽しませてくれるドライバーが上海に多いのも、こうした教育がもたらしたものではないだろうか。

現時点では不満な要素もまだ多いのは事実であるが、上海のタクシーの質が向上し続け、いつの日か上海タクシーが世界に誇れるタクシーになる日を私は待ち望んでいる。

このコラムが上海を訪れた時のみなさんの力に少しでもなれば幸いです。

参考文献

『上海ジャピオン』2008年8月29日号

〈文責〉西河 貴康

◆コラム◆～上海で活躍する日本人～

私たちグローバル・コミュニケーション学部の学生の多くは、社会に出たあと、日本国内のみならず世界で活躍することを望んでいます。海外で活躍している日本人は私たちにとって憧れの存在であり、大きな目標です。今回、1993年に上海で日本人初の公認会計士として赴任し、現在にいたるまで上海で活躍されている根本康彦さんにお話を伺いました。

プロフィール

根本康彦

1953年兵庫県生まれ。1976年早稲田大学法学部卒業、物流会社勤務などを経て1987年公認会計士二次試験合格、監査法人中央会計事務所（当時）に入所。1989－90年同法人台北駐在員。1992年公認会計士登録。1993年同法人上海駐在員として提携先のクーパス＆ライブランド（現PwC）上海事務所に赴任、上海駐在員日本人会計士第1号となる。1996年マイツグループの中国事業に参画。1999年上海邁伊茲諮詢有限公司を設立し、董事兼總經理に就任。2008年上海捷比愛企業管理諮詢有限公司（JRA上海）を設立し、董事兼總經理に就任。2010年、上記会社を上海捷比愛投資管理諮詢有限公司に組織再編し、董事長兼總經理に就任（現職）。

著書に『会計士の見た上海 20年－駐在員の喜怒哀楽』海事プレス社



—どうして職場に中国という国を選んだのですか？

もともと学生時代から中国には興味があったんですよ。高校時代に漢文とか世界史で中国の古代のことについていろいろ知って「おもしろい国だ、一度は行ってみたいな」とずっと思ってたんですが、1985年にブラザ合意があってそのあと日本は急激な円高に悩まされてね、企業がどんどん海外に出ていく時代になったんですね。それで今までは欧米が中心だったのが、80年代からはASEANや中国に企業が進出するようになったので、人口規模やこれからの発展性を考えて、また昔から興味があった国であることも加わり中国はおもしろいんじゃないのかと。これが中国にきた大きな理由だと思います。

—中国で仕事をしていた良かったことと悪かったことは何ですか？

良かったことは、僕は子供のころに日本で高度経済成長を経験していて、ちょうど私が上海で生活したこの20年というのは中国の、特に上海の高度経済成長の時代にあたり、大人になってから2度目の高度経済成長を経験できて一粒で二度おいしい経験ができたことが良かったことかな。悪かったというか、難しいと思ったことはこの国でのルール通りには物事が運ばないということ。この国では関係（中国語でコネの意味）の関係が物事を左右するので。これが一番中国で困ったことですかね。

—中国に来て気づいた文化の違いや感じたカルチャーショックについて教えてください。

日本と中国の考え方の一番の違いを言えば、日本人だったら一つの計画を立てるときに、そのあと起こりうるABCの可能性のそれぞれに対して、緻密じゃないにしろ、ある程度展開を予想して物事にあたろうとするけど、中国の人はまずAと決めつけて、そのまま突っ走って、Aのやり方に行き詰まったらBのやり方を再び考える。つまり日本人の方が論理的に物事を考えて行動する。そこが仕事をやっていく上で日本人と中国人のやり方の違いを感じます。

—私も上海で生活していて感じるのですが、日本の報道で見る中国の姿と実際の中国ではかなり実態が異なっていると思います。実際に根本さんが長年上海で生活されていてこのような経験をされたことはありますか？

まあ、しょっちゅうですね。日本に帰ったり、第三国に行ったりしたら「今、上海は大変みたいですね。」という言われ方をよくされるんですけど、確かに反日デモや大気汚染はあるけれども、そこで日本人が毎日襲われているのかとか、大気汚染で人がばたばたと倒れているのかといえれば決してそういうことではないですよ。昔はそうでもなかったんだけど、今は中国に煽られていることもあり、日本の報道も中国に対してはどちらかというと否定的な報道が多いと思いますかね。最近のシャドウバンキングの報道にしても明日にでも中国の金融システムが破綻するみたいな報道の仕方をしてますが、あんな正規のルートでないお金の動きは戦後の日本だってたくさんあったわけですから。最近の日本の中国報道はちょっとネガティブな面を強調しすぎかなという気はします。

—休日の過ごし方は？

休日の過ごし方というか、私は経営者なので平日と休日の区分けはあまりないですね。仕事があれば休日だろうが仕事をしています。レジャーと言えば5年くらい前までは結構ゴルフに凝ってたんですけど、始めたころからわかってたけどこれは才能がないなと（笑）。だから最近は学生時代にラグビーをやっていたので土曜日に日本人学校の子供にラグビーを教えています。あと、時間があるときには本を読むことぐらいですかね。

—この記事を読んでいる多くの人が、将来根本さんのように海外で活躍したいと考えていると思うのですが、根本さんが学生時代にこれだけはしておいた方が良いと思われることを教えてください。

僕らのころとみなさんの世代の環境はかなり変わっていて、僕の息子も数年前に就活をしてある企業で働いているんだけど、今の学生ははっきり言って見ていてかわいそう。僕らのころはオイルショックもあって不景気だったんだけど、それでも面接のときは交通費は出たよ。今はそれすら出ないし、合否判定の通知すら来ないこともある。そういうところを見ると、今の学生はかわいそうだと思う。

昔の学生の多くは今の学生ほどみんな勉強していなかったと思うよ。そういう点では我々から見ると今の学生は良く勉強していて本当に真面目だと思う。

海外国内問わず、将来みなさんがビジネスマンとしてやっていくためには、今がそういう厳しい世の中なので、語学でもなんでもいいので他の人に負けないスキルを身につけておいた方がいいと思います。

—国際社会が今の若者に求めていることは？

我々が就職したころというのは日本国内の競争だけで済んだところがあるけれども、みなさんの世代は欧米の人たちやアジアの人たちと同じ土俵に立って戦わなければいけない。だからそれだけライバルが増えているので、さっきも言ったように「この分野では誰にも負けないぞ」というくらいのスキルを持っておかないといけない。スポーツを見ても、個人プレーよりも団体プレーの方が得意、そういう特質が日本人にはある。これからの日本人は、外国人にも一対一の個人戦でも負けないようなスキルを身につけてほしいと思います。

—最後に私たち学生に応援メッセージをお願いします。

みなさんが頑張れば舞台はどんどん大きく広がっていくと思います。だからこれから悩んだり、挫折したりすることもあるでしょうが、細かいことは気にせずに頑張ってほしい。

〈文責〉西河 貴康

対

談

「留学とは」

をテーマにコースを超えて集合!

立場、年代を超えた

① 回生と先生による対談

このコーナーでは英語コース2人、中国語コース2人（それぞれ留学経験者、未経験者1人ずつ）の1回生、そこに英語コース、中国語コースの授業をして下さっている先生を1人ずつお招きし、対談をしていただきました。今年に留学を控えた1回生たちが抱える期待や不安などを語り、そこに一度留学経験のある2人がそれぞれの体験談を、そして先生方も留学に行った当時のお話をして下さいました。留学先がそれぞれ違うため、当然ながら各地域ごとに環境、文化、現地の人々など、違いは様々です。それぞれの体験談を面白おかしく、また今回のテーマである「留学とは」について、皆さんそれぞれ思いのままに話して下さいました。

竹島 加純

出席者

- | | |
|----------|-------------------|
| 司会 | ・井上 諒一 |
| コーディネーター | ・久保田 裕賀・竹島 加純 |
| 英語コース | ・南井 正廣 先生 |
| | ・水野 由美子・ウルフ 魁 ジョン |
| 中国語コース | ・久田 麻実子 先生 |
| | ・太田 亜門・是澤 智子 |



～ことばを学ぶきっかけとは？～

井上：今日は英語コースと中国語コースの方に集まっていただきました！では、最初の質問です。
なぜその言語（英語か中国語）を学ぼうと思ったのですか？

太田：僕はもともと英語を勉強していて、大学でも英語を勉強しようと思っていたんですが、グローバル社会に出たときに日本語と英語だけでどこまで通用するのか疑問に思ったのがきっかけ

けですね。帰国子女には英語で勝てないので彼らに対抗するためには何があるのかと考えた時、第3言語（中国語）だなと思いました。

井上：なぜ中国語なのですか？

太田：僕が留学した時に中国人の友達が多くて興味を持ったのと、**中国は今すごく勢いのある国**だからですね。

ウルフ：僕はカナダに留学したのがきっかけですね。結局、高校は4年で卒業になりましたが、留学の経験で学んだことがきっかけで同志社の推薦をもらえました。

太田：ウルフ、英語しゃべれるのに何で英語コースはいったん？

ウルフ：中国語は第3言語として英語コースでも勉強できるし、**なんだかんだ言って自分の英語パーフェクトじゃないんでパーフェクトにしたいじゃないですか！**

井上：では、先生方に質問です。**先生方が学生時代の時は今ほど語学が必要とされていなかったと思うんですが、なぜ英語と中国語を選ばれたのですか？**

南井先生：私は高校生の時に、学校の成績は良くても模試で点数取れなかったんですよ。そして、ある時に生物の先生に紹介された家庭教師に習って見たんです。その方は空手6段でいつも腰から手ぬぐいをぶら下げてるような方でしたが（笑）、どれが主語でどれが動詞で、関係代名詞はこれでといった感じで教えてもらううちに英語の点数が一番出るようになったからですね。あとは、高校生の時から先生になろうと思っていました。だから同志社なら英文かなと思って受けました。

久田先生：私の話はちょっとほかの人とは違うんだけど（笑）、もともと理系で物理と化学と数学は学年で一番でした。それで絶対物理学科に行って将来は国立天文台かNASAにいつか行って思っていました。でもセンターで失敗したときになぜか国語だけ満点とっちゃって、担任の先生に2次試験を受けるように言われて受けたらなぜか受かっちゃって（笑）。親にせっかく受かったんだから行きなさいといわれたのが最初でした（笑）。

～留学は語学だけじゃない！？～

井上：留学へ行った大きな理由はその勉強が楽しくなってきたからですか？

久田先生：いろんなものを読むため、**知識をつけるため**、あと文化を知るため。**文化はどうしても行ってみないと分からないし**、行ってすごいと思った反面、行ったことによってそこにある文化が見えました。たとえば中国のお墓ってみなさん知らないと思うんですけど、日本のお墓と違ってすごく大きくて、同志社の図書館くらいの大きさのものもあるんですよ！

一同：へー！

井上：そんなに大きいんですね！

久田先生：そう。やっぱり行って初めて中国人の思想というものがわかりました。こうだったのかと思えるし、**逆に日本文化を再認識**することもありました。

井上：そうなんですね～。
南井先生も留学に行ってたんですね？

南井先生：イギリスのケント大学に留学しました。僕の場合は割と遅くて、同志社に教員として入社してからでした。学生時代にもネイティブの先生の英語の授業をいくつか受けていたけど、実用的な英語を勉強したのは就職後でした。TOEFL も受けなおしましたし、いろいろなところに手紙を出しましたね。

井上：今と昔では違いはありますか？

久田先生：中国は**交通網がすごく**なったかな。急成長で、自転車社会から車社会になった。あとは地下鉄が発達した！

南井先生：(変わったこととして、) 連絡手段が一番大きいと思います。昔と違ってネット環境がありますし。僕の娘も留学中ですが LINE で連絡を取れますし、写真も見れますよね。自分の時代にもあったらなって思います (笑)。学生時代はポストに手紙を確認しにいけないと連絡が取れなかったですから (笑)。だから、**海外に行ってもあまり距離を感じない**と思います。

～家族と離れて大丈夫？～

井上：ウルフと太田くんは留学へ行くとき、**家族と離れるのが辛かった**ですか？

ウルフ：スカイプとかで頻繁に連絡をとっていたので、そんなには感じなかったですね。僕の場合、親戚の家に滞在する形だったということもあるんですけどね！

太田：でも逆にそこに頼りすぎると**日本語を話す時間が増える**ので (留学中は) **心配**ですね。

ウルフ：僕は留学中は日本人の友達とも英語でしゃべるようにしていました。結果、日本語がへんになっちゃったけど (笑)。

井上：そうなんですね (笑)。そのバランスが大事ですね。水野さんは、ホームシックになるのが心配だったりしますか？

水野：んー、家族の問題は今下宿中なので寂しい時期は終わりました。だからあんまり変わらな
いかなと思います。京都に住んでるのも外国に住んでるのも同じかなという感じで。何が
不安かもわからないかな。

～予想と違う、のが留学?～

井上：確かにまだ実感が湧かない部分ってありますよね。では、**1 回生の方、留学の意気込みに
ついてはどうですか？**

太田：知らない世界が広がってると思ったら楽しみでもあるし、それがまた不安でもあります。

水野：イメージがわかりません。自分がカナダに行って外国人に囲まれて、英語でディスカッショ
ンとかしてる姿が想像できなくて、結構留学先の情報を調べている学生もいますけど、**行っ
たら何とかなるんじゃないかな**と思います。

太田：逆に期待しすぎて期待が裏切られることもあると思うし逆もあると思う。

水野：え、がっかりしたことってありますか？

太田：僕の場合、アジア系が嫌いな人達がいる、理由もなく嫌われたり。そういうのはがっかり
しましたね。

南井先生：イギリスはそんな目にあったことなく、むしろ、家とか貸してくれて、(外国人学生
を受け入れることに) 慣れてるな～と思いました。ロンドンにもいろんな人種の人た
ちがいっぱいいて、これが当たり前として受け入れられてるんだなと思いました。国
としてみるから問題が出てくるけど、たいていの人は普通に問題のない人が多かった。
どこの世界にも折り合いの悪い人がいるのは仕方ない、と思いました。

久田先生：私は、逆に中国人って怖いんだろうなと思って行っただけです。南京に行ったらどうな
るんだろうかとか思いながら行っただけですが、向こうで地図見てたら、人が寄ってきて、
どうしよう?と思ったら、**みんな説明してくれるために集まってくれて、すごく親
切だ**と思った! 満員のバスに乗ってる時に、降りられなくて困っていたら、周りの人
が運転手さんに叫んでくれたりもしました。その反面、中国人は意見を曲げないとい
ちもありました。信号待ちをしていたら、「車は無視していくからいつまでたっても渡れ
んぞ」っていわれて。どうしようと思っていたら、「一緒にわたってやる!」といわれ
て一緒に渡ってくれたりして。**頑固だけど親切だった** (笑)。

一同：(笑)

井上：**3 回生の帰国した方たちからは何か聞きましたか？**

久田先生：ご飯が不味いと思ってご飯のことについて聞いたら、美味しくて逆に太って帰ってきました、って言われました（笑）。

南井先生：一年たったらすごく向こうの人みたいになって帰って来たなと思いました。今は戻りつつあるけど（笑）、やっぱり一皮むけたと思います。**堂々となった**。おいしかったのか体格良くなってるね（笑）。あと、**プレゼンテーションがうまくなっている**。就職活動があるけど、どこに出しても恥ずかしくないような人たちが平均的に多いと思います。1 回生の時に鍛えたものにさらに磨きがかかったように思います。

～学生としての留学、指導者としての留学～

井上：1 回生のみなさんは留学で何を学びたいですか？先生方は、何を学んできて欲しいですか？

太田：語学力を上げるのは当たり前なので、そこから何を学ぶか。中国の文化を、**中国って何かを見て、感じたいな**と思います。後、中国人は人脈を大事にするので向こうで**人脈を広げたいな**と思います。

久田先生：中華思想を身をもって体験してきてほしい。日本で聞いてもわからないからね。

是澤：中国語の力を上げたいのはもちろんなんですが、就活の時に「あなたは何をしてきましたか？」と聞かれたときに中国語ですという以上に、「**その言語を使って何をしたいかというものを答えられるようにしておきなさい**」と先生に言われているので、この留学を通して何をしたいかというものを見つけたいなと思います。きっかけ作りを大切にしたいなと思います。

ウルフ：僕はカナダと日本のハーフですが、今回はじめてカナダの西海岸に行くので**カナダの新たな一面を発見したい**と思います。友達も増やしていきたいですね。コネクションはやっぱり大事ですね！

水野：私は少し違うんですが、いま、英語の授業で自分の思っていることが上手く伝えられなくてもどかしいときがあるので、とりあえず、**自分の思っていることを伝えられるようになります**。留学先の大学が実学重視なので、今まで興味なかったことにも手を出して**自分の探しの旅**にしたいです。

南井先生：まだまだ若いから大丈夫！一年行ってたら相当なとこまでいけるから悲観することはないですよ。私は「出会い」みたいな…、向こうで会った先生と日本に帰ってきてもやり取りする、ような。**人と人との出会いを見つけることが大事**。後は英語喋れる人はいっぱいいるし、中国語も数は少ないけどいると思う。私たちには何ができるのか、言語に加えて何ができるか。「これなら誰にも負けない自信があります！」というものを見つけてきてほしい。他の学部と違って（留学が）必修なのでそのチャンスを活かさない手はないと思います。

久田先生：向こうの環境をしっかりと学んできてほしい。今時、学歴よりその人の能力が評価される。中国の文化がどういうことかというものを理解した上で何ができるのかをアピールできるように学んできてほしいと思います。そうすると、**留学してない人たちより文化を理解しているから、現地の人たちと交渉するときに有利だったりする**と思います。そういうのを感じ取ってきてほしい。

～あなたにとって、留学とは？～

井上：では、最後の質問です。**ズバリ！あなたにとっての留学とは？**

太田：一番効果的な、刺激のある中国語の授業だと思います！

是澤：一般人じゃなくなる。人と違う強みが持てるようになる。**自信がつく**と思います。

水野：さっき言いましたが、**自分探しの旅**です（笑）。

ウルフ：**結果オーライ！**最初何があっても最後にやってよかったなと思えば成功だと思います。

久田先生：**自分を見つめなおすきっかけとなるもの。**すべての意味で。

南井先生：人間って、成長するから、ものの見方とか視野とか。活動するステージがあがるべきですね。そのきっかけ。**人生の中の自信となるもの。**

井上：対談は以上です。貴重なお時間をありがとうございました。

これから留学する私たち 1 回生と留学経験のある先生方との対談はとても興味深かったです。私自身はウルフさんや太田さんのように留学を経験したことがあったので、同じ立場として話を伺っていました。コースが違い、学ぶ言語が違っていても、国の文化や歴史的背景が違う中で生活をするという点は同じなのだと思います。先生方がおっしゃるように、自分、そして日本を改めて見つめなおし、留学で得た経験を自信に変えることのできるように頑張ります。

久保田 裕賀

教えて先輩！
経験者から学ぶ

留学への不安解消



この対談チームでは、留学の「準備」について話し合ってもらいました。留学と言っても、そのために何をすれば良いのか、何を持って行けばいいのか、おそらくこれから留学する人のほとんどが疑問に思っていることでしょう。このコーナーでは、留学する人たちのそんな疑問を、留学を経験した人、そして今留学している人たちがズバリ解消してくれました！学年、コースをまたいでいるのでいろいろな話を聞くことができました。ひとりひとりの体験談がすごくおもしろいです！それでは勉強面、生活面など、具体的にどのような準備が必要なののでしょうか。楽しんで読んでください！

中西 純花

出席者

- | | |
|----------|---------------|
| 司会 | ・大槻 容子 |
| コーディネーター | ・中西 純花・岩城 ほの香 |
| 英語コース | ・太田 知花 (3 回生) |
| | ・吉田 壮太 (3 回生) |
| | ・喜多 里奈 (1 回生) |
| 中国語コース | ・城塚 真衣 (3 回生) |
| | ・川口 幸枝 (1 回生) |
| 日本語コース | ・周 婷 (1 回生) |



- 大槻**：今日は、来年留学を控えている 1 回生へ 3 回生からアドバイスなど、1 回生の問題解決の場に来たらと思っています！
初めに、**3 回生は留学先をどのように決めたのですか？**
- 太田**：私は**アメリカの UC Davis 校に行きました**。高校生の時にオーストラリア（以下 AUS）に行ったんですけど、大学で留学に行くなら英語が AUS とは違う、アメリカに行きたいと思っていました。また入学したら UC 系列！と決めていたからです。
- 吉田**：ニュージーランド(以下 NZ)の Victoria University of Wellington に行きました。理由は、NZ だけ一年間まるまる留学できたからです。あとは、日本人があまりいないところがいいなと思ったからです。NZ は僕らの代も 4 人しかおらず、少人数で楽しめてよかったです。
- 城塚**：**私は一年間北京に行きました**。上海の知り合いに北京に行ったほうが標準語がうまくなるよと言われたのと、勉強していくうちに北京の歴史にも興味が湧いてきたので北京に行きました。
- 喜多**：3 月からカナダの Guelph 大学に留学します。理由は高校生の時に一週間カナダに行って、惚れたからです！ Tourism とか International Relations に興味があったのも理由の一つです。
- 川口**：まだ行先は決定していませんが、希望は北京大学です。
- 周**：私が日本に来た理由は、母が日本企業に勤めていて、自分も将来日本で働きたいと思ったからです。同志社大学を選んだ理由は、同志社が関西地区で一番有名な大学だったからです。
- ## ～教えて先輩!留学前の準備って?～
- 大槻**：では、留学経験者が留学前にしておけば良かった事とかありますか？
- 吉田**：留学先で様々な人と交流していく中で、**その人達にとっては僕たちが日本代表として見られるんですよ**。だから**日本に関するトピックを知っておくべきだと思います**。僕も日本のことを聞かれて、日本人なのに答えられないことが多かったんです。もっと文化にしろニュースにしろ、日本のことを知っておけばよかったと思いました。
- 太田**：日本のことももちろんだけど**自分の行く国の基本的な知識とかも必要**です。自分のなかのイメージも湧くし良いと思います。あとむこうで授業をとるときに、多くの選択肢があるから、**どんなことを中心に勉強したいのか**という軸をなんとなくでも決めておいたほうが良かったと思います。生活面でいうと、**お茶をたくさん持って行きました**。高校の時に AUS に留学していた時、**毎日コーラとスプライト**でお茶が恋しくなった経験があるからです。あとはお土産とかあれば、友達にも配れるし良いと思います。

城塚：中国と英語圏は全く違うと思うんですよ。中国人に対しては、日本の文化やアニメとかだけでも、深く説明できることを一つ持っておいたら、それだけで十分話が広がると思います。自分で日本の文化を語れるようにしておいたらよかったかな。あと、日本のメディアの情報にとらわれず、中国に対する**固定観念を全部捨てて**、自分自身で中国という国を認識することも大切だと思いました。

周：やはり日本語の学力が必要です。日本に来て、初めて病気になった時、病院には行きたくなかったので、持参した自分の国の薬で治しました。**体調管理も必要**ですね。あとは日本に来る前に、日本のことについて調べました。やはり日本に来れば、中国のことを知りたがる日本人がたくさんいるので、自分の国のことはちゃんと知っておくべきですね。あとは料理かな？

太田：ああ料理！ご飯とか持って行く機会もあるし自分の家に友達が来る時とか、自分が食べたい時に若干できたほうがいいかなと思うんですが**みんな料理とか作りましたか？**

吉田：ルームシェアする時に作ったかな。留学先では働けないし外食もそんな頻繁にできないから、家でよく作ってました。

城塚：中国では外で買って食べたほうが安いですが。でも中国の家庭料理を食べる機会があまりなかったのがさみしかったですね。

～教えて先輩！カメラは必須!? 無理なく友達を作るには?～

大槻：1 回生から質問ありますか？

川口：留学行ったら日本の文化について紹介出来る自信がないです…。そういう**文化面で知っておいたらよかったことはありますか？**

吉田：僕はカメラが趣味だから**口で説明するより撮った写真を見せましたよ**。見せながら説明したりして。**最初から口頭で全部説明しなくてもいい**と思います。あとは日本についてっていわれてもそんな広いわけではないし、自分の住んでいる場所とか日本人ってどんなのとかなんとなく考えておけばいいと思います。

城塚：写真は良いですね。日本のデータとか作ったり。

川口：日本を紹介しているようなスクラップブックみたいなのですか？

城塚：自分の写真の方が見せたかな。桜見に行ったときとか、普通の写真でも喜んでくれるから。

周：日本っぽいですね～。

吉田：写真って自分がこれを記憶にとどめたいと思って撮るじゃないですか。何年たっても、その時どう感じたのかとか思い出せるから**カメラは必須です！**僕は一眼レフっていう趣味がきっかけで、**カメラを趣味としている人と輪が広がりました。**一眼に限らずデジカメでも写真が好きっていうことから絶対話は広げられるじゃないですか。外国人って結構カメラ好きだし。中国人も好きですよ？

城塚：うん。中国人も結構日本製のカメラ持ってる人多いです。

1 回生：へえ～

大槻：趣味があるのはいいかもしれないですね。

喜多：趣味がないのが悩みです。

城塚：趣味ってそのために時間費やすみたいなものだから、何でもいいんだよ！

～教えて先輩！ 留学中の連絡手段って？～

周：中国人の友達とはまだ連絡していますか？

城塚：とってます！でも中国ってネット状況が悪くて、中国版の LINE とかも Wi-Fi がないと不便なんですよ。

大槻：みんなの連絡手段は？

太田：Facebook (FB) でつながるからあえてメールはしないですね。

大槻：Twitter とかは？

吉田：一緒に住んでた人のうちでは一人にだけ follow されてるけど、あんまり使わないな～。

城塚：中国では FB も Twitter も使えないんですよ。Twitter とかは中国版の登録が必要だし。

大槻：文化の違いで連絡手段も変わってくるみたいですね。

太田：イベントとかの誘いも FB かな。とにかくパソコンを使ってました。授業とかでも office 系のソフトを使いこなせないと厳しい！

城塚：テレビよりはインターネット見る時が多かったです。中国人は日本人よりもインターネットを使いこなしているの。

～教えて先輩！寮とホームステイってどんな感じ？～

大槻：3回生の皆さんはホームステイか寮かどっちでしたか？具体的にどんな感じでしたか。

吉田：僕はホームステイも寮もどっちもでしたよ。ホームステイの時は留学生だけで9人もいました！中国人、ドイツ人、クウェート人と僕。あと多すぎて分かんないですけど（笑）。そのとき思ったのはやっぱり、**日本人の当たり前って留学生には全く通じない**。とくに中国人の男子とか、こっちからすると想像できないこともありますよね。

太田：そうですね。まあ慣れるけど。

吉田：中国人からすればそれが当たり前で、こっちは否定する理由がないから何とも言えなくて。そんな感じのストレスフルな毎日でした。そういうのを受け入れる寛大な心がないと、ホームステイでそんなことがあった時になかなかキツイのかも。でも**いろんな国の人と一緒に生活するってことは本当にいい良い経験になる**と思います。

太田：私はずっとホームステイでした。まず行った時点で日本人の女の子が一人来てて、日本語喋っちゃうんじゃないかって不安でしたが、全然大丈夫でした。その後に、中国人と南米の人が来て、今まで日本人と暮らしてた時とのギャップを感じました。だから**悪い面も見えたけど、逆に日本の良い面に気づける機会にもなったんですよ**。どんな状況であっても、結局とりあえず**ポジティブに考え**といった方がうまくいくのは確かです！

城塚：私は同志社が指定した寮で、すごく環境が良かったです。もちろん日本人と一緒にいることもあるんですけど、そこにいる中国人と一緒に生活できました。基本は二人一部屋で寝室は別。共同のトイレと風呂でしたが、二人だったし不自由はありませんでした。寮が大学から近いつてこともあって、すごく住みやすかったです。治安も良かったし、すごく恵まれてると感じましたね。

喜多：ホストファミリーについてすごく不安なんですが、先輩方はどうでしたか？

太田：結構アメリカのホストファミリーはビジネス感覚でやってる人が多いって聞くけど、ちゃんと優しい人もいるからあまり偏見を持たなくてもいいと思いますよ。**ただやってもらったことに関しては感謝の気持ちを表した方が良いです。感謝は大切。**

大槻：私は高校の時のホストファミリーの話ですが、異父三人兄弟でシングルマザーの家庭でした。テレビ、電話、インターネットも全部切られて、生活保護を受けていました。でもお金が無くてもすごくあったかいファミリーでした。その前のファミリーが、私の滞在中に離婚してしまって、追い出されたこともありますし、**家族って本当にそれぞれです**。そんなことがあっても良い経験だと思うし、大丈夫！ **Do not expect too much !**

城塚：でも**お金はきっちりし**といった方が**良いです**。中国人には、（食事などを）払って貰ったその場でお金を返しちゃうとすごく失礼になっちゃいます。中国人はすごく面子を大事にする

からそれは気をつけたほうがいいかも。

川口：勉強面だけでなく、生活面での具体的な準備を教えてください！たとえば持っていけば良かったものとか。

吉田：服とかあまりもって行かないほうがいいかも。NZ では夏とかもうシャツ替えるだけって感じでも全然浮かないですよ～。

城塚：中国人は日本人と服装が違うところがあります。日本人が着ないような色の服を着てたりします。だから少しは日本から持って行ったほうがいいかな。向こうで買ってもいいと思うけど、あんまり期待しない方がいいと思います。

大槻：洗濯したら一発で縮むから洗濯ネットが必要です。

吉田：色物と白物は絶対に分けた方がいいです。外国では日本以上に染まりますから。

～教えて先輩！ 留学中は日本語を使ってた？～

川口：中国語コースでは同じ大学に行く人がたくさんいるじゃないですか。日本人だけで固まってしまうとかいう不安はなかったんですか？

城塚：北京とか上海とって、日本人は結構留学に行くから、そういう不安はやっぱりありましたよ。でも私はわざと、日本人相手でも中国語を喋るようにしてみましたね。日本人を避けてはなかったけど、日本人と喋るというよりは、同じクラスの留学生のとなりに座ったりとかして、自分で留学生の友達探して中国語を喋っていました。

吉田：留学先に行ったらどのようにコミュニケーションをとるかをメンバーで先に決めておいたらいいいと思います。結局日本語を使っただけ後からする後悔って大きくなってくると思うし。NZ の4人はもうオークランド空港に着いた瞬間から、一年後に関西国際空港に着くまで、3ヶ月に一回設けた日本語デー以外はもう絶対に日本語しゃべらないって決めて、本当にそれ以外は喋らなかったんですよ。一年後にはお互いに日本語喋るのが不自然なぐらいまで自分たちの成長を感じました。

太田：もめてたね、どこも。Davis は何回か緊急会議がありました。Davis はGC から10人行ってて、連絡まわすときの言語については話し合いがありました。英語徹底したいって言う人もいたし、重要なことはなるべく日本語で理解したいって言う人もいました。意見が分かれたけど、自分が結局言語を真剣に頑張りたいと思うのであれば、日本語喋らずに生活した方がそりゃ絶対いいと思います。

城塚：中国語コースの場合、日本人が多かったのもあって、けっこう日本語喋ってました。でも今は普通に喋れてるから問題はなかったんじゃないですかね。ずっと中国語喋ろうとした

らきっとプレッシャーになるから、私は外では中国語で、寮に帰ったら日本語で話すって決めてました。そういうリズムをつけたら日本語喋ってても上達すると思います。時と場合によって、中国語を喋るときは喋る、リフレッシュするところはする、っていうスタンスでいけばいいですよ！

～教えて先輩！ 荷物の量はどれくらい？～

川口：けっこう荷物って多くなりますか？

吉田：行きはスーツケース1個で、帰りは手荷物が多すぎたから2個で帰って来ました。ただ、空港の荷物、重さはすごく厳しいから気をつけた方が良いです。僕はスーツケース重量ぎりぎりまで詰めても、まだ入らなくて。それで手荷物だったら重さなんてばれないだろうと思ってバックパックに詰めました。でも結局重すぎて搭乗ゲートの目の前で減らすと言われて、教科書、筆箱、あと服はほぼその場で捨てた。

太田：あと、日本から荷物を送ってもらってもいいと思います！

～教えて先輩！ 留学に対する心意気！～

大槻：では最後に、留学した人から今からする人に向けてのメッセージをいただきたいと思います。

太田：遊んでなんぼ。

一同：お～！

太田：勉強も大事だけど、結局思い出として残るのは楽しかったことしかないから、友達作って、その友達とどれだけ思い出つくれるかが重要ですね。

吉田：「後悔の少なさが今後の人生を決める」と思います。例えば自分からいろんなコミュニティに飛び込んだり、いろんな活動に取り組んだり、帰国後いかに後悔しないように努めるかが、これからの学生生活や、就職活動を左右すると思います。だから後悔しないようにNZで僕はできることをすべてしました。

大槻：締め言葉として、皆さん今日はありがとうございました。熱意を持って話してくださって、1回生にもすごく良い機会になったと思います。

3 回生、1 回生の皆様、お疲れ様でした。私自身、それぞれの 3 回生が、違う国でいろいろな事を吸収して帰国したのだと、一人ひとりの物語を聞きながら楽しんでいました。また「留学」とは、語学だけでなく文化や人、その国に触れ合い、学び、共有していく事と改めて感じられた良い機会となりました。3 回生の経験から学んだ事を生かして、1 回生の皆様のこれからの留学生活がより実りの深いものになりますように。

大槻 容子

留学を経て、 世界とつながる

③ 回生による対談



この対談では2年次に Study Abroad (SA) を終えた3回生6名に集まってもらい、対談をしました。皆それぞれ違う国や大学に留学をしていたため、興味深いエピソードをたくさん聞くことが出来ました。3回生の私にとっても、こんな風にゆっくりとお互いの留学について語り合う機会が今まで意外になかったので、今回はとても良い機会になったと思います。これから留学をしようとしている方や、留学経験のある方も、この対談を読んでいただくとGCの学生が留学で様々なことを学んで、めいっばい楽しんで帰って来たということが伝わるとと思います。

門澤 愛

出席者

司会 ・ 門澤 愛
コーディネーター ・ 加藤 聖人 ・ 竹下 佐智江
英語コース ・ 一見 知沙 ・ 藤島 啓樹 ・ 真鍋 大輔
中国語コース ・ 百井 貴一 ・ 華井 佑実 ・ 坂下 勇佑



～留学までの生活、どう過ごした？～

門澤：留学先で学んだ外国語、つまり英語コースの人なら英語、中国語コースの人なら中国語の勉強に火がついたきっかけは何ですか？ちなみに私は高校生の時、ジョニー・デップが大好きで、毎日 TSUTAYA に通い、深夜まで一日 5 本くらい映画を観て、そういうところから英語を頑張ろうと思いました。

一見：英語をしっかりと勉強し始めたきっかけは高校のときに一番得意だったからです。でも(GCに)入った時に、話す英語と、高校のように文法を順序立てて学ぶ英語は全然違うことなんだなと気付きました。そして留学先で日本語を学んでいるアメリカ人に会い、彼らも日本語を話せないと気付いて、私も地道に勉強してみようかなと思い、そこから頑張り始めました！

一同：すばらしい！！

門澤：藤島くんはどうですか。

藤島：僕の場合は、具体的な目標はなかったけど高校の時からなんとなく留学には行きたいと思っていて、GC 学部を選びました。イギリスを留学先を選んだ理由は、イギリスのスポーツや競馬が好きだったからです。現地の人とのスポーツの会話についていけたらもっとおもしろいんだろうなって思って、向こう行ってから更に頑張ろうという気持ちになりました。

門澤：なるほど！

坂下：台湾人は親日的だとか、日本のサブカルチャーに興味もってくれてるということを知って、台湾に興味をもちました。それで、台湾のことをもっと知るためにも、中国語をもっと勉強しようって思いました。

藤島：向こう（台湾）の人って日本語よくしゃべってました？

坂下：お年寄りの方もよくしゃべるし、若い子も日本語を積極的に勉強している子が多かったです。普通に日本のファッション雑誌とかも売ってたし。

門澤：一見さん質問とかありますか？

一見：中国語って四声とか発音が難しいじゃないですか、聞き取れるようになったのはいつですか？

坂下：難しい質問ですね。全部で 4 学期あって、最初の 1 ヶ月は先生が外国人に分かりやすいように発音してくれたので理解できたんですけど、やっぱりネイティブの話となると、全然聞き取れないし分からなかったです。ちゃんと聞き取れるようになったのはちょうど中盤くらいになってからでしたね。

門澤：なるほど。百井くんは中国に住んでたんだよね？

百井：小4から中3までね。でも日本人学校だったから全く中国語を話せず…。しかも高校のとき、大学はそのまま内部進学しようと考えていたので当時中国語を勉強する気はなかったんです。でも、ちょっと話はそれますが、転機があって、当時の彼女に「お前本当にそれでいいんかよ！」、と言われ、そこで中国語を一から勉強してみようという気になり、同志社に入学しました。まあ**留学中は倍返ししたろ**って（笑）。

一見：えっ、誰に（笑）？

百井：彼女に（笑）。

門澤：はい、以上百井くんコーナーでした（笑）。では、**留学先の大学をどのように選びましたか？またその大学を選んだ理由とは？**

百井：俺ら（中国語コース）はあんまり情報なかったよね。

華井：うんうん。GCの自習室に写真と簡単な情報が載った2枚ほどの紙だけしか提供されなくて、後は**自分たちで現地大学のホームページを調べました**。でも現地大学のものは日本語のホームページが整備されてないから、大した情報が得られなくて、結局、北京・上海・台湾の三択で、どこが一番留学期間が長いとか、その程度の上辺だけの情報で決めました。

藤島：それを聞くと、英語コースは情報も多くて恵まれてたよな。僕はやっぱり、英語といえばイギリスかなと思って決めました。英語の英ってイギリスのことだし（笑）。

真鍋：俺は、こんな田舎の地域に二度と旅行では行かないなと思って、ニューキャッスルにしようとしてずっと決めてました。ここで面白い話があって、ニューキャッスルについてホームページで調べていて、留学先は意外と都会なんや！って思ったけど、実はイギリスのニューキャッスルのホームページ見ていたという…（笑）。

一同：（笑）

門澤：では次の質問です。**みなさん留学の準備はどのようにしましたか？**

藤島：何もしてない（笑）。

一見：必要なものだけは固めて後は留学先で買うってスタイルでした！

真鍋：（留学先で GC からは 1 人なので）ただただ寂しかった。だから、独りで全部、**大学と国のこととか調べて、持っていく物は全部リストアップして、揃えてって**感じでした。

門澤：素晴らしい！模範解答ですね。

一見：（中国語コースに対して）留学に行く前から環境のことが少しずつ言われ出したと思うのですが、マスクなどは準備して行きましたか？それとも、実家から送ってもらいましたか？

坂下：台湾は大丈夫だったのですが、大陸の方が…。

華井：上海もそこまででしたが、祖母が心配してマスクを送ってくれました。でも、当時現地でマスクをしている人は少なかったです。反日感情も高まっていたので、逆にマスクをしていると日本人ってバレちゃうので、私はマスクをしないでいました。

百井：話はそれますが、北京では環境とかよりも、大使館周辺の反日デモがあって大変でした。ただ、北京大学は郊外にあるので、特に影響はなかったのですが。でも結局、環境汚染云々より、**反日感情とかをどう見るかってことの方が重要**だと思いました。そもそも、日本の工場も中国の汚染に加担してる訳だし。**メディアに捉われず、しっかり自分の目で実情把握できて良かった**と思います。

～それぞれ違う留学生活！～

門澤：留学先でカルチャーショックはありましたか？

一見：カリフォルニアでハンバーガーにも十字架切ってて、そこまで戒律を守るんや、と思ってびっくりしました。

藤島：留学先の寮に着いて自己紹介が終わるや否や、勉強に対する姿勢、将来についてのことなどを聞かれてびっくりしました。さらに、一緒に住んでた人は年下の1回生で18歳なのに、自分の将来を真剣に考えていて、**向こうの人は大学に行く意味、勉強する意味とかが明確で、俺は何してるんやろうか**思いましたね。

門澤：留学先で1番楽しかったことを教えてほしいです。

一見：ホストが（12月）24日と25日にサンフランシスコのヒルトンに泊めてくれて、ご飯とかも全部奢ってくれて、サンフランシスコ周遊して、超楽しかったです！

藤島：僕は長期休暇中に競馬を観るためにアイルランドに行ったんですよ。そこで競馬場まで歩いてると突然馬主のおっちゃんが、どこに行くの？と聞いてきたんですよ。

門澤：おー！それで？

藤島：あそこの競馬場って答えると、車に乗せてくれて、「TAKASHI って知ってるか？」と聞かれて、「是非会わしたる！」と。いや、TAKASHI って誰やねん（笑）ってなったけど、結局お会いして、馬も見せてもらって。**知らない土地を歩いていく間に特別な経験をしましたね。**

坂下：旅行とかも楽しかったのですが、ドアがなく、屋根だけある、日本でいえば居酒屋みたいな場所でみんなでテーブル囲んでお酒飲みながらご飯を食べるのが楽しかったです。なんだかんだ、友達や先生と食べながら喋ることが一番楽しかったかな。

門澤：では、ホストファミリーとの生活、寮生活はどうでしたか？

百井：僕ら（中国語コース）は英語コースに憧れが強いですね。

華井：はい、中国語圏ではそこまでホストファミリーの制度を聞かないので、うらやましいなって思います。

真鍋：僕のホストファザーはジャズピアニストで、家にチェロとかもありました。だから、一緒にギター弾いたり、ピアノ教えてもらったり、音楽生活は充実してましたね。知り合いの**プロのミュージシャンを家に呼んでもらって一緒にセッション**することもあって、本当に楽しかったです。

門澤：えー！すごいね！！

真鍋：それと、家の近くに動物の保護区のような施設があって、カンガルーやコアラを無料でみることができました。

一見：私のホストファミリーはお金持ちの日系の家族で、**パパはお米の会社の副社長**でした。私が「え、パパいないけど、今日はどうしたの？」って聞くとマザーが「パパは今日からロシアに行って、韓国に行って、中国に行って日本に行って、帰ってくるわよ。」ということがあったりしました。それで時々帰ってくるパパの話がおもしろかった！

門澤：ちなみに、私のホストファミリーの構成は40歳くらいの夫婦、姉2人、弟、犬と猫でした。でも、私の部屋だけが地下で、**生活リズムも違ったので会わないときは3日くらい会わなかったです**。だから、久しぶりに家族と会くと、家の中なのに「Long time no see!」と言われるような状態でした（笑）。

百井：僕は、寮で**中国人とルームシェア**でした。でも、他の日本人は日本語を勉強している中国人とだったのに、僕だけ（ルームメイトが）日本語を勉強していない中国人でした。結局、僕はルームシェアの子と喧嘩して終わっちゃいました。というのも、相手がヘビースモーカーで、あまりお風呂にも入らないとかで、生活習慣が合わなかったからですね。

門澤：留学先の大学でとった授業でおもしろかったのはありましたか？

百井：僕はしなかったんですけど、北京大学では、古代の中国語を学ぶ学部編入という形で入学できます。でも中国人学生と同じ扱いになるんで、単位とかは確実にとれる保証はなく、**相当なチャレンジ精神がないと乗り切れない**ですね。とった人はとても大変そうでした。

一見：フランス語の授業が日本の授業の仕方とは全然違っていて、インターネットを使うことにより、リスニング・ディクテーション・文法の確認が出来るという便利なシステムが採用されていました。

藤島：確かに、向こうの授業は日本とは全然違っていました。日本での授業は、読み書きが中心だと思うのですが、僕がとった現地での授業では「読む書く聞く話す」の4技能をまんべんなくやるという、すごくバランスの良い授業システムでした。他にも、頻繁に隣の人と話す機会を与えてくれたりとか、語学の勉強の方法がとてもユニークでした。

門澤：留学中どういうところで友達ができましたか？

華井：上海の寮が外国人寮で、中国人が全くいないんですよ。だから、GCの学生は中国人の友達を作るのが大変でした。でも、中国人のランゲージパートナーを探してくれる事務所に申請すると、中国人を紹介してくれて、数人ほど中国人の友達を作ることができました。

門澤：今もその友達と仲良いですか？

華井：仲良いです。夏休みに日本に遊びにきてくれるほどの仲です。

門澤：真鍋くんは今でも交流を続けている友達はいいますか？

真鍋：います。その子はオーストラリア人でめちゃめちゃ仲良いです。しかも、その子はまじめで、クラブもそこまで好きじゃないし、お酒も飲まないオーストラリア人。ギターもやってるし！

藤島：オーストラリア人でそういうタイプって珍しい！

門澤：現地での生活の中で、何か発見はありましたか？

坂下：台湾人は日本のことを大好きだし、他の国から台湾に来た留学生も日本に対しては好意的でした。特に日本のサブカルチャーが人気ですね。アニメとか。とてもびっくりしたのが、大学にPCルームがあるんですけど、そこでアフリカ人のお姉ちゃんが日本のロンドンハーツを字幕なしでみてて、しかも笑いどころはちゃんと声を出して笑ってて、わかってんねや、と思いました（笑）。

真鍋：すごいですね（笑）！

坂下：それに、リアルタイムで日本の情報が台湾に入ってくるんで、日本で流行った「今でしょ！」とかも向こうで流行ってたように、台湾人は日本の流行語などにも敏感でした。

百井：向こう（中国）の人たちはとても勤勉でした。家を朝早くに出て、夜の11時くらいまで勉強していましたね。図書館がテスト期間でなくても常に満杯なことには驚きでした。

華井：日本では、反日感情とかが過激に報道されて、中国にいる日本人は常に危険にさらされるといふ認識があるかもしれませんが、実際にはそんなことはありません。普通に暮らしてる分には何の問題もなかったです。もちろん、中国人の中には主張が激しい人はいるんですけど、全員が全員そうではないんです。でも、日本にいる家族や友達から毎日心配されて…。結局、それは日本国内にいる日本人と中国に滞在している日本人との間で、考え方が違っているからなのかなと感じました。やっぱり、行ってみないと分からないことがあるんだと、心底思いました。

～留学で得たものとは!～

門澤：では、皆さん、留学先のそれぞれの大学に行って良かったと感じていますか？

坂下：行って良かったです。

華井&百井：同じくです。

藤島&一見&真鍋：満足です！

門澤：満場一致ですね！では、留学に行ってズバリ何を学んだと思いますか？

坂下：言語はただのツールでしかないから、結局は、コミュニケーション力が大切だなと思いました。

藤島：留学に行く前よりも**良い意味でバカになれたかな**って感じます。留学先で出来た友達の影響で、行く前よりはオープンになれたかなって。知らない人と喋ることに抵抗がなくなったということが明らかに変わった部分かなと思います。

百井：生活する国が変われば、その国には固有の文化があるので、日本人の考えがいつでも当てはまるわけでないと感じました。もちろんそれによって、カルチャーショックも起きてしまうけれど、その**カルチャーショックを自分の体で学べたかな**と思います。

一見：他国や他の地域に対する個人のステレオタイプは全く通用しないんだなって感じました。

門澤：留学で学んだことを将来どう活かしたいですか？

藤島：やっぱり、英語を学んでからこそ、ほとんどの人とコミュニケーションが取れると思うので、**外国人との共同の仕事に活かしたい**と思います。そしていつか、英語の力で対等にネイティブの人と仕事をできたら素敵だなと思います。

華井：就活が12月から始まって、エントリーを考えている企業は、中国と関わってる企業が多いです。それに中国で一年住んだ経験があるので、駐在も全く苦じゃないし、むしろした

いです！言語は使わないと忘れてしまうし、日本に居ても使う機会は少ないと思うので、**将来ずっと中国語を使いたい**ですね。そういう方面で自分の将来を考えてます。

門澤：これで対談は終わりです。ありがとうございました！

今回、私は3回生の対談を担当しました。英語コース、中国語コースそれぞれのSA中に感じたジェネレーションギャップ、楽しかったこと、大変だったことなど、非常に興味深い話をまとめられた対談になったと感じています。個人的には1回生にとって未知なもので、不安もあるSAが、先輩たちの生の声を聴けたことで期待と楽しみへと変わりました。と同時にSAを有意義なものにできるかは自分次第だとも感じています。最後に、この対談を読んでもくださった皆様にとって、SAというものがどのようなものなのかを感じていただけたのなら幸いです。

竹下 佐智江

アンケートから読み解く!

GC学部の実態!?

このコーナーでは、まだまだ謎に包まれているグローバルコミュニケーション学部の実態に迫るべく、学生や先生のリアルな声をお届けしたいと思います!

全コースの学生を対象に、生活・勉強・留学の3点についてアンケートを実施し、また先生方には、学部や学部生に対しての印象などをメインにお話を伺いました。このコーナーを通して、より多くの方々に私たちのことを知っていただき、身近に感じていただけたらと思います。

アンケート実施期間: 2013年11月

対象者: 英語コース1・3回生各20名、中国語コース1・3回生各10名、日本語コース5名
計 65名

生活編

編集委員の鍵山です! こちらのコーナーでは、アンケート結果を通して、GC学部生が何を考え、どんな思いを胸に抱いて日常を過ごしているのか、探っていきたいと思います。まずはGC学部生の暮らしの基本情報をQ & A方式で見えていきましょう!

Q1 下宿生が多い? 実家生が多い?

日本人学生は全体を通して下宿生と実家生が約半数ずつという結果となりました。15分以内の距離に住む人もいれば、2時間半かけて学校まで通う人も少なくありません。留学前までは実家から通っていたけれど、帰国後に下宿を始めた人もいます。

Q2 部活やサークルに入っている?

入っている人ももちろんいますが、どちらかといえば入っていない人の方が多いようです。キャンパスが京都に位置するだけに京都研究会に入る人もいれば、ピアノ研究会に入る人、体育会系の部活に入る人など様々です。

Q3 アルバイトはしている?

全体を通してアルバイトをしている人がとても多いです。傾向としては1回生の間は週3~4日アルバイトをして、3回生になると週1~2日に減る人がほとんど…と聞きたいところですが、そのような結果が見られたのは中国語コースのみでした。どういうわけか、英語コースは1回生と同様、週3~4日の頻度でアルバイトをする人の方が多いという結果となりました。中国語コースの3回生と英語コースの3回生とでは何か異なる部分があるのでしょうか…(笑)。アルバイトをしている理由としては、生活費や、社会経験のため、といった回答が目立ちました。大学生は大人の仲間入りということで、自分の生活に対する責任感がめばえ始めているのかもしれない。

ここまで、全体の暮らしについて述べてきましたが、続いて GC 学部生の 1 週間のスケジュールの例をご紹介しますと思います。

英語コース生の週間スケジュール例（ウィニペグ大学留学時のもの）

日本文化センターのような
場所で地元の中学生や小学
生に日本文化を紹介！

	月	火	水	木	金
9:00	友達と自習	友達と自習	友達と自習		友達と自習
10:00				ボランティアに参加	
11:00					
12:00					
13:00	Micro Economics		Micro Economics	文化人類学	Micro Economics
14:00		文化人類学			
15:00	日本語 TA ボラン		自習	課題	語学学校のアク
16:00	ティア@地元の高校	友達とお喋り	日本語サークル		ティビティ
17:00			友達と食事		パーティ！！
18:00		Disability Studies (社会学)			
19:00	学校に戻って				
20:00	自習と食事				
21:00					

…大学の講義

上記の学生は、空いた時間を利用して積極的に交流の場へ参加していたようです。日本語に興味を持っている人は世界中にいますので、日本人であることを活かして、交流の輪を広げられたらいいですね！留学先の大学によって講義内容も、スケジュールも大きく異なるので、みなさんも、自分で実際に留学に行き、自分だけの週間スケジュールを作ってみてください！

中国語コース生の週間スケジュール例（3 回生秋学期のもの）

	月	火	水	木	金
1 限					
2 限	英語コミュニケーション	ビジネス中国語	通訳の理論と実践	就活説明会参加	中国語検定(聴講)
3 限	中国語文法論	中国語圏の経済と貿易	上級中国語会話	就活情報収集	自習
4 限	異文化交渉概論	建学の精神とキリスト教	ゼミ		自習
5 限	発信型日本学	行動心理学	(ゼミ延長)		

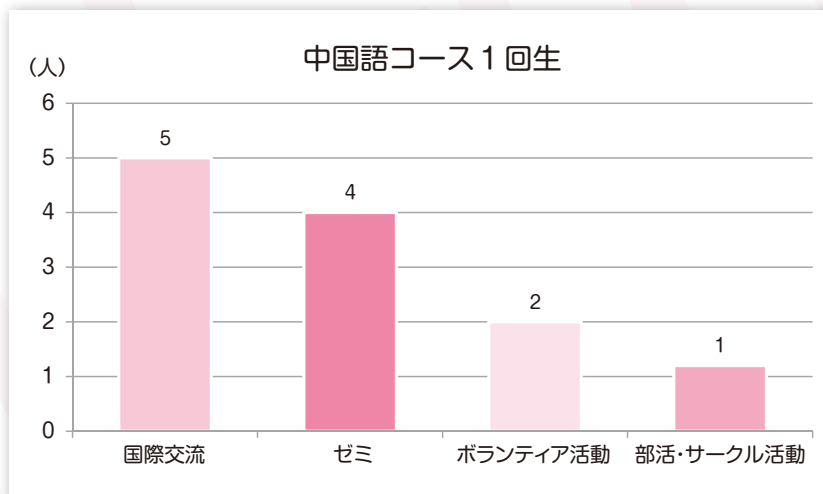
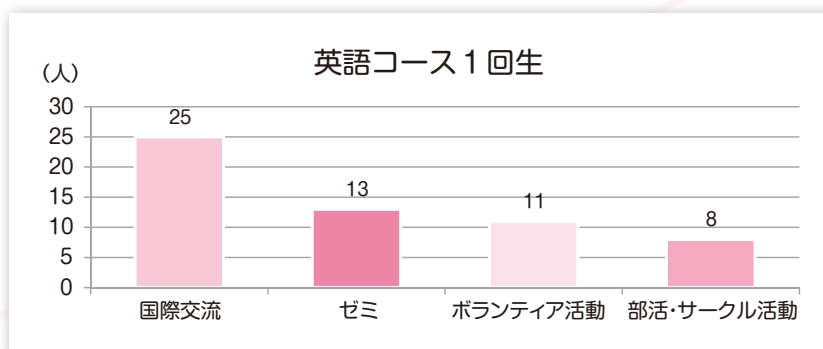
…GC 学部の授業

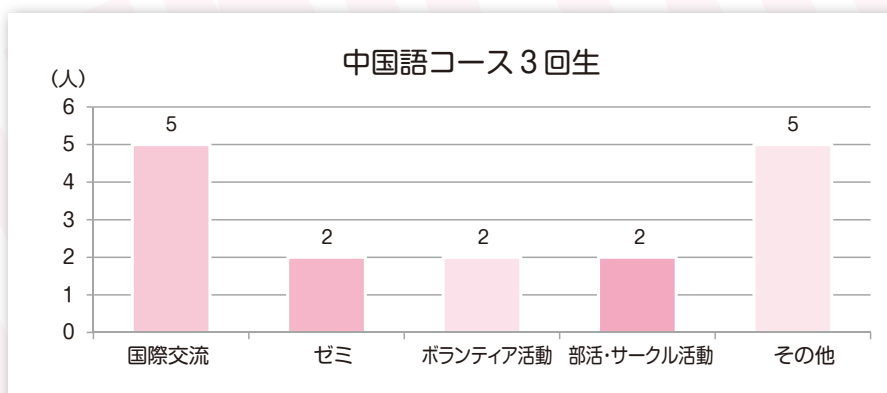
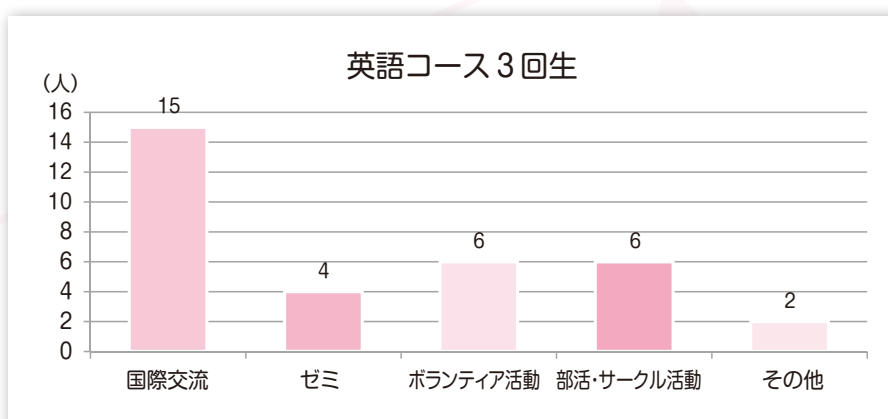
GC 学部は、他学部比べて圧倒的に必修科目が多いです。1 回生の間は決められた授業が多く、あまり自由のきかない時間割でしたが、3 回生になると、1 回生の時よりも学部の必修科目が減って選択科目が増えるため、比較的自分の都合に合わせて時間割を組むことが出来るようになります。上記の 3 回生のように、授業を 1 週間の前半に固めて、後半を就活や自習の時間に充てている人もいれば、毎日学校に行って生活にメリハリをつけたい、ということで 1 日 2 コマ × 5 日で時間割を組んでいる人もいます。GC 学部には専用自習室が用意されているので、空きコマに自習室で休憩したり自習したりもできます。

以上に挙げたのは、週間スケジュールのほんの一例です。是非みなさんの自分好みに時間割をアレンジしてみてくださいね！少しでも GC 生がどんな 1 週間を送っているのかイメージしてもらえたらいいと思います。

記者かわりまして大槲がお送りします！次のアンケートでは、グローバル・コミュニケーション学部生の抱く「将来像」を見ていきたいと思います。学部での学びを終ればいよいよ、社会人としてより大きな責任を背負うこととなりますが、自分の将来を左右する大きな選択を前に、周囲の友人からも大きく影響を受けることとなるでしょう。この学部で共に学ぶ学生は、どのような「将来像」を描いているのでしょうか？

Q 4 大学生の間にしてみたいことは何ですか？





◎国際交流やボランティア活動にアツイ視線！

この学部ならではのと言えるでしょうか、圧倒的に多かったのが国際交流をしてみたいという答えでした。1 回生はこれから始まる留学での様々な国籍を持つ人々との触れ合いに心を躍らせているでしょうし、また留学を終えた 3 回生は、その経験を活かして京都の中でも積極的に外国人との交流を深めています。グローバル・コミュニケーション学部では、学生達のそうした風潮の中で、外国人と接する機会をより多く持つことが出来るでしょう。

また、ボランティア活動に興味がある学生も多くいました。そうした活動をしてみたいと思っている人も、友人達に負けられないと積極的に行動に移すことが出来るのではないのでしょうか？ 私自身もカナダへの留学中に、東日本大震災にて被害を受けた地域に向けた寄付金を募るチャリティイベントを手伝わせていただきました。留学の機会を利用してより積極的にボランティアに携わる人も多くいるようで、そして留学先の大学では必ず、そういった機会が用意されているはずです。

◎何かの“スペシャリスト”を目指して

1 回生に多かったのが、英語コースでは留学を終えた 3 年次より、中国語コースでは 2 年次より担当教授の下に別れて行う、「ゼミ」が楽しみであるという答えです。語学の基本的な能力を鍛える 1 年次、2 年次の留学を経て、より専門的な知識を勉強する機会になります。現在 3 回生が在籍しているゼミでは、英語コースでは言語学や、ビジネス、人類学など、また中国語コースでは、中国の文化、内政や外交、国際情勢などを専攻しています。留学を通して得る語学力や異文化に

対応する力と、様々な分野に亘った専門知識とをあわせて、グローバル化し複雑化する社会で通用する、真のコミュニケーション能力を身に付ける事ができるでしょう。

Q5 あなたの将来の夢はなんですか？また、どういった仕事に就きたいですか？

<1 回生>

・英語コース

マスコミ、外資の秘書、マーケティング、英語を使った仕事、社長夫人、商社、パイロット、UNHCR、NGO（飢餓に苦しむ子供たちを救う）、同志社のシュワルツェネッガー

・中国語コース

メディア関連、ホテルマン、田舎で子供や自然と触れ合い暮らす、博物館学芸員、語学力を活かせる仕事

◎海外で活躍したい！

これら1回生の回答でも、やはり語学力を活かせる仕事に人気が集まっています。また驚きなのが、1回生の時点から具体的な企業名まで挙げられていることです。GC学部の売りのひとつに、全ての学年が利用できる自学自習室の存在がありますが、そこでより活発に上回生とも交流し、早いうちから将来を明確に意識するようになるのかもしれませんが。

また、現在の3回生が1年次に在籍していた頃もそうなのですが、例えば国連の率いる支援活動や、NGO等に所属しての活動を通して社会に貢献したいという思いは、このグローバル・コミュニケーション学部ならではの夢ではないでしょうか？しかし後述する3回生へのアンケートではそういった答えが見られない代わりに、より企業的な志望の様子が見られます。就職活動という大きな波に吞まれ、より現実的な将来を、と考えてしまうのかもしれませんが、世界の不均衡をなくし、世界平和を実現するための直接的な活動をすることを、叶えるべき夢として忘れずにいて欲しいと思います。

<3 回生>

・英語コース

メーカー、グローバルな活躍、お得意さんが出来るような仕事、食品、営業、ホテル、商社マン、日本人として世界に誇れる仕事、英語を使う仕事、幸せな家庭を築く、自分の好きな仕事をする、アスリートを支える仕事、影響力のある仕事、世界中を飛び回ること、プレッシャーの中で働く、世界中の女性がより活躍する支援、IT、日本文化を世界に伝える、人事のプロ、水ビジネス、年収800万円を超える仕事、雑誌の創刊、外交官、化学メーカー

・中国語コース

日本と外国を飛び回る、家庭を持つ、自分のやりたいこと・趣味・適性の3つが当てはまる仕事、中国に進出する事業に携わる、香港に住む、世界を股にかけるようなこと、日本と海外の文化交流、国際的企業、尊敬できる人のもとで働きたい、台湾にまだ知られていない日本の素晴らしいものを広めたい

◎就職活動のまっただ中で

3 回生は今まさに就職活動を進めているということで、より具体的な答えが集まりました。その志望先は様々な分野に分かれていますが、共通しているのはやはり海外を視野に入れた働き方を考えていることです。例えばメーカーや商社などでも、多くの学生が海外との貿易を意識しています。そういった商品の流通の他に、人々の活動、また生活を支える職業への志向が強く見られます。

一方で、公式ホームページの発表による同志社大学全体での学生の就職先においては、金融関係の進路が最も多く見られるのですが、この学部でのアンケートにはそういった答えが全く見られませんでした。もちろんそういった業界においても、国際的規模の事業は多く扱われるのですが、当学部の学生は、法人単位との関わりを多く扱う金融業界よりも、より人々の生活、文化に近い分野での活躍を望む傾向があるように思います。

以上、学生達の将来像に関するアンケートでした！

様々な夢があり、またコース、学年毎に違いはあるものの、大きく見てグローバル・コミュニケーション学部には、①世界を飛び回って活躍したい。②たくさんの人々と関わりたい。という思いが強い学生が多く集まっています。そういった志を同じくする友人達と切磋琢磨して海外に羽ばたくもよし、あなたならではの夢の実現にこの学部での学びを利用するもよし。人との関わり合いを通し、グローバル社会で更に多様化する「やりたいこと」を叶えるための自由で多彩な知識や経験を与えてくれるのが、グローバル・コミュニケーション学部の一番の魅力ではないでしょうか。

変わりました、編集委員の高井が「GC 学部生の思い出」についてお伝えします！

勉強やバイト、サークル活動などなにかと忙しい GC 学部の学生ですが、この一年、どんな思い出や感想があるのかを聞いてみました！

ランキング形式にしてまとめましたので、どうぞ。

Q 6 この一年で印象に残ったことや思い出は何ですか？

[英語コース・1 回生]

3 位 授業の難しさ…

プレゼンテーションをする授業が初めてなので難しかった、との声がありました。高校の授業とは全く異なるので、最初は戸惑ってしまうこともあったようです。

2 位 海外経験の豊富さ！

周りの学生が帰国生であったり、留学経験があったりで、英語ができる人がいて驚いたことが多かったとのことでした。英語で行う授業が多く、このような新鮮な驚きもあるのでしょうか。こうした環境の中で、自分の力を磨くことができるのも、この学部の特徴なのかもしれませんね。

1 位 個性の豊かな友だち！

何がこの一年で印象に残ったか…。その答えで一番多かったのは、個性豊かな友達がたくさんできたこと！でした。志高く勉強に対して真摯に打ち込む人がいたり、興味があることにアクティブに取り組む人がいたり…。あまり人数が多くない学部だからこそいろんな人と仲良くなれるチャンスがあるのでしょ！

勉強意識やレベルが高く、個性も強くてみんなが尊敬しあえる仲間が多くできたこと（英語コース1回生・女性）
一人ひとり価値観が違って、チームになったとき上手くやっていけるところがすごいと思った。（英語コース1回生・女性）

[中国語コース・1回生]

3位 神戸へのフィールドワーク

歴史的に海外の交流が頻繁になされてきた神戸。その影響もあってか、古くから日本に移り住んできた中国人である「華僑」が多い地域でもあります。そんな華僑について調べるために行ったフィールドワークが印象に残ったそうです。中国語コースらしい結果ですね。

2位 クローバー祭

同志社大学の学園祭の一つであるクローバー祭では、中国語コースに限らず GC 全コースの有志の学生で国際交流のアクティビティを行い、大いに盛り上がりました。そんな楽しい思い出が見事2位にランクインしました！

1位 勉強

中国語コースでは、ほとんどの学生が中国語を初めて本格的に勉強します。それに加えて、クラスの宿題でレジュメを自分で作ったりして、大変な思いをしたそうです。しかし、それを通して成長ができた！語学力がついた！という意見もありました。

[日本語コース]

日本語コースの学生の回答はきれいに割れてしまったのですが、共通しているのは「それぞれ日本での留学生生活を頑張っていること！」です。例えば、ある男性は、留学に関する相談会に参加したことが楽しかったと回答していますし、別の男性は、体育会系の部活に入って頑張っているそうです！中でも印象に残ったのは「初めて日本人の友だちができたこと」（日本語コース1回生・女性）という回答でした。もっともっとコース間での交流を増やして、留学生たちの留学をよりよいものにしなければ、そう感じるアンケート結果になりました。

[中国語コース / 英語コース・3回生]

言うまでもないでしょう…。この一年で印象に残ったこと、
堂々の1位は “Study Abroad”（留学）でした！

実に、80%の3回生がそのように回答しました。その留学がどのようなものであったか、私たちはそのことについても聞き取りアンケートを実施しましたので、詳しくは後半に載っているそちらをご覧ください！

いかがでしたでしょうか。GC 学部の学生達自身の内情に迫るアンケート、お楽しみいただけたら幸いです！個性豊かな学生が揃うこの学部で、たくさんの経験、また素晴らしい友人を見つけて欲しいと思います。

文責：中国語コース3回生 鍵山裕香

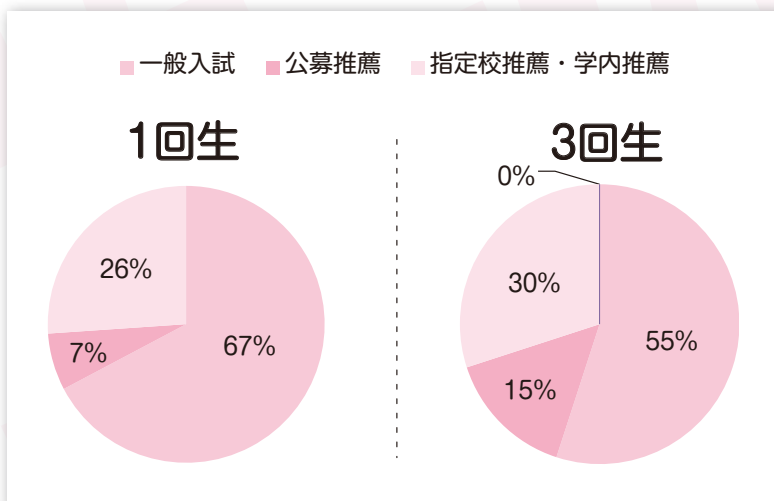
英語コース3回生 大櫛直人・高井大智・谷口 綾

勉強編

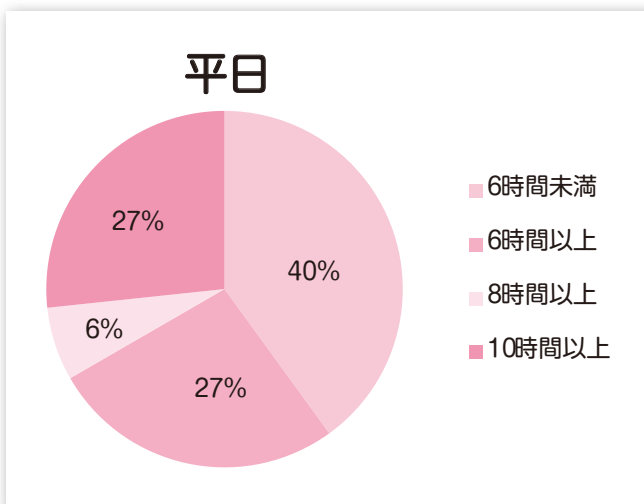
ここでは GC 学部の入試に関することや、授業についてなどを紹介します。GC 学部を志望する方々はこの入試情報をぜひ参考にしてくださいね。

それでは GC 学生たちは、どのような受験勉強をしてきたのでしょうか。学生 みなさんに受験勉強についての質問をしました。

Q 1 あなたの入試方法はなんでしたか？



Q 2 入学試験（公募推薦、一般入試を含む）の本番 1 ヶ月前、1 日にどれだけ勉強しましたか？



また休日には 10 時間以上勉強する人が多いです。しかし、一方で、公募推薦で入学した学生の中には、6 時間も勉強しなかったという人もいました。頑張ってください！

それでは、公募推薦を受けた学生たちに聞きました。

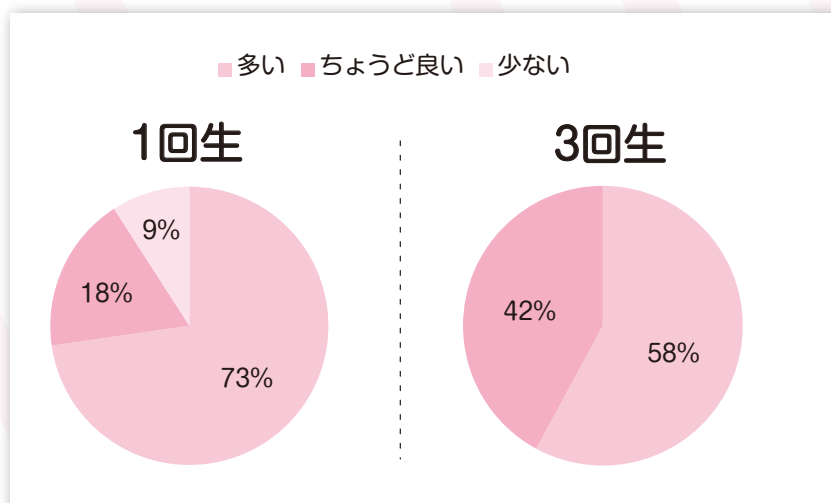
Q 3 公募推薦のためにどのような対策をしてきましたか？

- ・ グローバリゼーション、コミュニケーションのことについての本を多読した
- ・ 天声人語の英語訳と和訳の本を読む
- ・ 新聞、ニュース、英語ニュースで時事問題を理解しておく
- ・ 新聞を切り取って、自分なりにまとめ、要約し、自分の意見をまとめ、予備校または高校の先生に添削してもらう
- ・ CNN ニュース、BBC ニュースを見る
- ・ 先生や友達、家族と英語の面接練習をする
- ・ 部活や委員会、好きなことを極める

公募推薦において、時事問題を把握しておくことは絶対条件です。日頃から、新聞やテレビのニュースには目を向けておくと思えます。試験本番は緊張してしまうと思うので、念入りに面接練習をしておくことが重要です。まず自分であらかじめ聞かれそうな質問の解答を考えておき、それから早めの段階で、学校の先生や予備校の先生に面接練習をお願いしましょう。

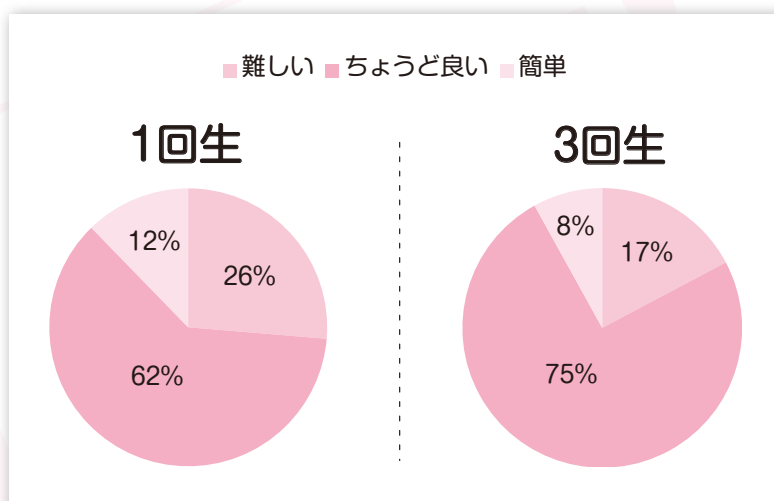
こうして皆さん無事、GC 学部に入學できたわけですが、入學してからの勉強生活はどのようなでしょうか。

Q 4 課題の量が多いと感じますか？



やはり課題の量が多いと感じる人は比較的多いですね。ですが皆さん、サークルやバイトと上手く両立させながら、課題をこなしています。今回とても驚いたのは、この質問の解答者の中で留学を終えて帰ってきた3回生が、誰一人、課題を少ないと感じていないことです…。

Q 5 授業の難易度はどうですか？



皆さん優秀ですね。ですが、最初のうちは特色の強い GC の授業に戸惑う人が多いかもしれません。しかし、授業に出席し、与えられた課題をちゃんとこなしていけばきっと大丈夫です。そんなオリジナリティ溢れる GC の授業には、どのような特色があるのでしょうか。

Q 6 授業の内容で高校と最も違うと思うことは何ですか？

- ・ 発言の量
- ・ 意見を求められる
- ・ ディスカッションやプレゼンテーションをする機会が多い
- ・ やる気があればどんどん勉強できる（逆に授業をちゃんと聞いていないと試験前などに大変になる）
- ・ 少人数制の授業で、英語を話す、使う機会がたくさんあり、学びが深まる
- ・ 教科書がない授業がある
- ・ 同じ科目でも、担当する教授によって、授業の進行方法、授業内容、宿題が全く異なる
- ・ グループワークが多い

GC の授業は、高校の授業のように、生徒が先生から受動的に授業を受けるものとは異なり、学生が主体になったものが多いです。グループワークがとても多く、プレゼンテーションやグループディスカッションなど、ほかの学生と協力したり、意見交換をしたりする機会が多いのが特徴です。留学中の授業はグループディスカッションやプレゼンテーションが中心となるので、こうした GC の授業は留学に向けての練習にもなります。それだけでなく、自分なりの意見を持って、それを人に伝えるという練習は、就職活動や社会に出た際にも役立つはずです。自らの学びへの姿勢を意識して、GC の授業をより実のあるものにしたいですね。

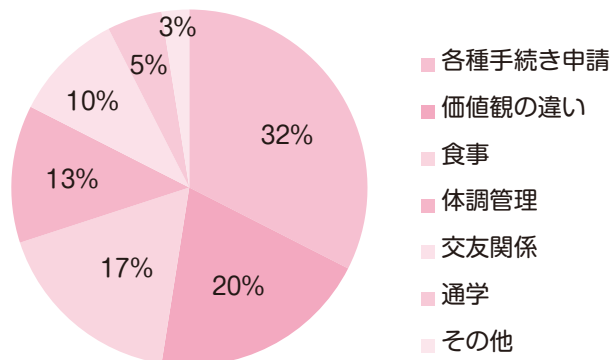
文責：英語コース 1 年生 大塚美梨
田上 栞
花岡翔太

留学編

みなさん、「留学」という言葉から、どのようなことを想像しますか？
楽しそう？大変そう？留学経験のある人もない人も、本学部の英語コース
と中国語コースで必修となっている1年間の Study Abroad、日本語コー
スへの留学がどのようなものなのかは知らないはず…。そこで、すでに SA のプログラムを履修し
終えた3回生と在学中の日本語コースの学生を対象に、留学についてのアンケートを実施しました。

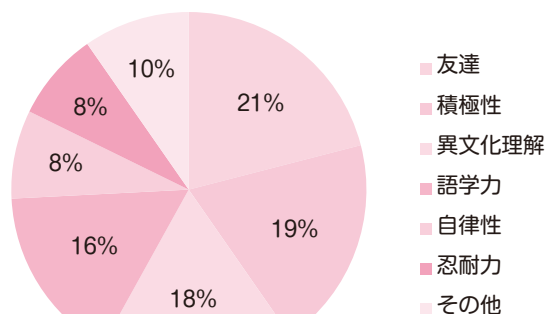
対象者：英語コース 3 回生 20 名、中国語コース 3 回生 10 名、日本語コース 5 名

Q 1 留学中に勉強以外で苦労したことは何ですか？



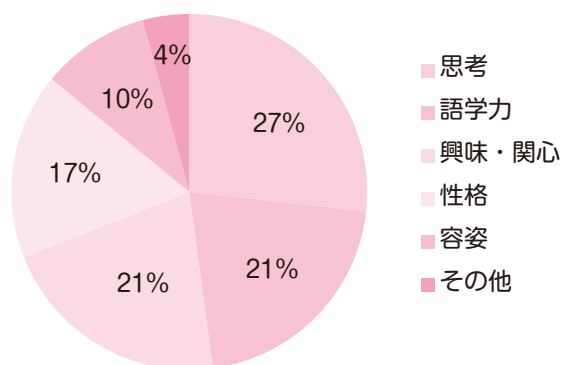
意外にも最も多かったのはビザ等の手続き・申請でした。特にイギリスは手続きが遅く、大変だったようです。宗教やタイムマネージングを始めとする文化の違いや、日常の英語でのコミュニケーションの難しさ、食事が合わず苦労したという意見も多くありました。

Q 2 留学を通して得たものは何ですか？



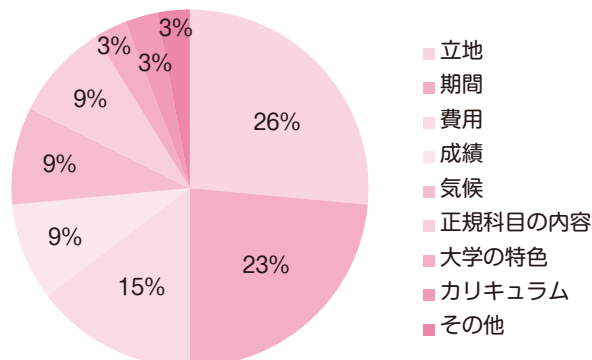
多国籍の友達が出来た人だけではなく、狭く深い友達が出来たという人もいます。またその他の意見としては、人生の機微、日本では得難い経験や知識、就活のネタといった意見が見られました。

Q 3 留学前後で最も大きく変化したものは何ですか？



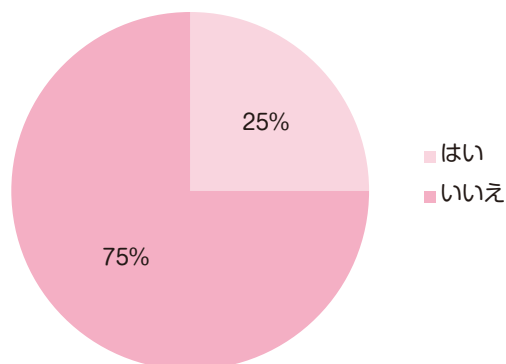
どの学生も自身の内面の成長を実感しているようでした。「働きたい業界が明確になった」「視野が広がった」「物よりも経験に投資するようになった」という思考や関心の分野に関するものから、「寛容になった」「自信がついた」という性格に関するものまで幅広くありましたが、どれも SA 中の経験で養われたもののようでした。中には食生活の変化による体重増加を挙げた学生も…。

Q 4 留学先の最大の決め手となったものは何ですか？



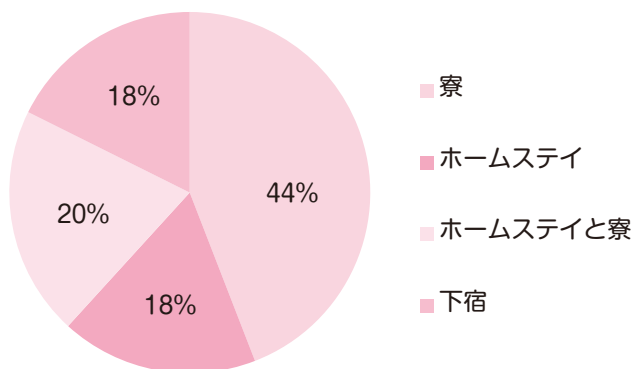
GC 英語コースの留学先は、2013 年度に新たに 2 校追加されており、選択の幅は更に広がっています。その中で大学を選ぶ決め手となるものは人それぞれですが、大学の立地と留学の期間が約半数を占めました。

Q 5 留学中に恋人は出来ましたか？



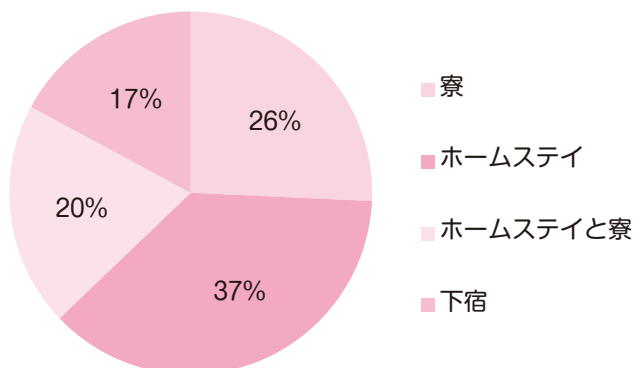
長期留学の間、恋人が出来た人も少なくなかったようです。恋人の国籍で一番多かったのは韓国で、その他にはサウジアラビアや中国、日本がありました。留学先の正規の学生よりも、そこで出会った他国からの留学生と付き合いの人が多かったようです。

Q 6 留学中の居住形態は？



英語コースは留学先の大学によって、ホームステイか寮かが決められていたり、選択出来たりします。それに対して中国語コースは全員が寮生活を送ることになっています。日本語コースではほとんどの学生が下宿しており、一部のみ寮に入っているようです。

Q 7 もし選択が可能なのであれば、後輩にはどの居住形態を勧めますか？



寮生活のメリットは、自由で当たり外れが少なく、同世代の友人ができるという点だったのに対し、ホームステイは文化を知るのに適している、嫌でも誰かと話さなければならないので語学力向上につながる、という点でした。下宿を勧める学生には自立や自由を求める意見が多かったものの、いずれの学生もより多く人と会話できる環境と自由とのバランスを重視するようでした。

Q 8 留学中で最も印象に残っている思い出について教えてください。

【英語コース】

- ・ わらしべ長者をした
- ・ ヒッチハイクと野宿で某国縦断に成功後、旅先で出来た友人から自転車を借りて帰宅
- ・ 一人旅中にたくさんの人に助けられたこと
- ・ 国籍が違う留学生の友人 5 人と road trip に行った
(SA 中は運転禁止なので、他の学生が運転してくれた)
- ・ クラスで 1 番の成績をとったこと
- ・ 約 60 ページ以上のレポートを英語で書ききれた達成感
- ・ 行きつけのカフェで偶然知り合った人とあるパーティで再会し仲良くなるうちに、その人の

家で出会ったルームメイトの人が自分のいわゆる best friend の1 人となったこと

- ・ 毎週ホストファミリーに自然いっぱいの湖やハイキングコースに連れて行ってもらい、遊んだこと
- ・ たこ焼きやすき焼きを料理したとき、海外の方がおいしいと喜んでくれたこと
- ・ One Direction（イギリスのアイドル）に会えた

【中国語コース】

- ・ 様々な国籍の友人とたくさん遊びに行って、“グローバル・コミュニケーション”を実感した
- ・ 春節の深夜まで鳴り響く爆竹と花火

【日本語コース】

- ・ フェンシング部の活動
- ・ 温泉旅行に行ったこと

楽しい思い出から勉強の思い出まで人によって実に様々でしたが、adventurous な旅や、人との出会いに関するものが多かったように思われます。SA ならではの貴重な経験ができたことがよくわかります。

いかがでしたでしょうか？今まで抱いていた留学のイメージと異なるものはありましたか？どの学生も、限られた期間内の様々な経験を通して、語学力だけでなく、人間としても大きく成長してこられたようです。SA 中に乗り越えた困難やたくさんの出会いと思い出は、一生の宝となることでしょう。これから SA に旅立つ学生も、出国から一年後には数えきれないほどの思い出を抱え、成長した姿で帰国できるといいですね。

文責：英語コース 1 回生 木村紗矢香
上田実佳
日本語コース 1 回生 朴 書慧
イヒョンジ

先生方に聞きました！

ここまでは学生の生の声をお伝えしてきましたが、では先生方から見た GC は一体どうなのだろう…ということで、学生・学部について伺いました。嬉しい意見をたくさん頂き、GC 生としての誇りがより高まるような結果となりましたので、どうぞご覧ください。

Q 1 GC 学部生に求めることは何ですか？

より広い分野に興味や関心を抱くことで、明確な目標を見つけ出すこと。それに伴い自分から積極的に行動し、好奇心や向上心を忘れず努力し続け、考える力やコミュニケーション能力を養ってほしい。将来的には 4 年間の学びを活かし、グローバルに活躍する人材となって社会に貢献することを望む。

Q 2 GC 学部の良いところはどこですか？

学生：学生同士の仲が良く団結力がある。多くの学生が自ら積極的に動き、様々なことを企画・運営している。たくさんある課題や実習などに熱心に取り組む努力家が多い。

学部：少人数制のため、教員との距離がとても近い。新しい学部ならではの柔軟性を持ち、明確な目標達成のためのカリキュラムが組まれている。

教員：みんな親切で、学生のための努力を惜しまない。教員が学生の名前や持ち味、キャラクターを把握している。

Q 3 GC 学部と他学部の違いは何ですか？

1 番に言えることはやはり、少人数制であり、そのため学生と教員との距離が非常に近いこと。アットホームな雰囲気です GC が好き！！ということがわかる。自由な雰囲気です活発だが、あまり考えずに発言する学生も。積極的に発言する学生と消極的な学生の両極端である。小規模な学部ならではの甘えもあるかもしれないが、全体的に意識が高い。

Q 4 GC 学部の強みは何ですか？

何といっても 1 年間の SA である。この SA での学修や異文化体験を通じて、実践的な言語運用能力、社会の荒波にも耐えられるタフな精神力、柔軟な思考力等を養える。たくさんのことに挑戦できるのは、創設 3 年目であることの利点だ。他学部のような「伝統」とにらわれず、自分たちの手で試行錯誤しながら新しいものを作り上げることができる。卒業して社会に出ても、この GC 学部生の故郷となり、誇りとなれる学部であり続けるようこれからも学生とこの学部を創っていきたい。

お忙しいところ今回アンケートへの御協力いただきましたこと、誠にありがとうございました。多くの先生方の生の声・ご意見を頂戴できました。改めて GC の一員として在籍していることを嬉しく思います。このようにアンケート調査をさせていただけたのも、先生方との距離が近いからこそできることです。これを機に GC 学部全体がより一層飛躍することを願いながら、努力し続けていきたいと思っています。

アンケートにご協力いただいた先生方

英語コース：松木啓子先生、寺西隆弘先生、竹田宗継先生、窪田光男先生、
玉井史絵先生、南井正廣先生、Paul Carty 先生、
Dale John Ward 先生、伊勢晃先生

中国語コース：中西裕樹先生、日野みどり先生、内田尚孝先生、郭雲輝先生

日本語コース：須藤潤先生、山森良枝先生、脇田里子先生

(順不同)

文責： 中国語コース 1 回生 野見山玲奈
英語コース 1 回生 木村紗矢香

編集後記

留学を終え、1期生が3回生となり、就職活動の時期がついに始まりました。そこで、近頃よく考えさせられるのが、「グローバル・コミュニケーションとは？」です。私たちが学んでいるのは一体何なのか。もちろん、これだと決まった答えはないでしょう。人それぞれ答えは違うものです。私個人の解釈としては、それは国籍・人種・種族を越えて、お互いのバックグラウンドや文化、考え方、価値観の共通点や相違点を理解したうえで図る効率的なコミュニケーションです。それゆえ、世界中の様々な国籍・人種・種族のバックグラウンドや文化、考え方、価値観を知ることがグローバル・コミュニケーションのキーとなります。しかし世界中の全てを知ることは不可能です。私たちが見て知っているのはこの世界のごく一部なのです。各人が見聞き、体験したことにより蓄えた限られた知識・情報を駆使し、自分なりのやり方でグローバルにコミュニケーションを図っていく。グローバル・コミュニケーションは人それぞれ違うものなのです。そして、グローバル・コミュニケーション学部では、人それぞれ違ったことを違ったやり方で学んでいます。学んでいる事に対しての決まった答えはなく、学生それぞれが自分なりの考えを持って自分なりの答えを探し出す。それを自分なりのやり方で他人に伝える。これが私達が日々学んでいることです。“cosmos”という単語の意味の一つとして“世界”があります。この *Cosmos* 第3号では、私たちグローバル・コミュニケーション学部という世界のいくつかの側面を紹介しました。それはごく一部の情報にしか過ぎませんが、これからも様々な切り口から学部の情報を提供していきたいと思います。今後も、この *Cosmos* を手にとっていただければ幸いです。

英語コース 3回生 菅井 翼

2013 年度 *Cosmos* 編集委員会

英語コース 3回生 門澤 愛・大櫛 直人・大槻 容子・嶋津 あすか・菅井 翼・
高井 大智・谷口 綾・上野 叶恵

1回生 花岡 翔大・井上 諒一・加藤 聖人・木村 紗矢香・久保田 裕賀
中西 純花・大塚 美梨・田上 栞・上田 実佳

中国語コース 3回生 鍵山 裕香

2回生 西河 貴康

1回生 岩城 ほのか・野見山 玲奈・竹島 加純・竹下 佐智江

日本語コース 3回生 劉 瀟瀟

1回生 李 炫知・朴 書慧

グローバル・コミュニケーション学会

運営編集委員会・役員会

中村 久男・伊勢 晃・Marie Thorsten・郭 雲輝・三ツ木 道夫・脇田 里子・

中西 裕樹・山本 妙

Cosmos 第3号

2014年3月15日発行

発行 同志社大学グローバル・コミュニケーション学会
〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3
同志社大学グローバル・コミュニケーション学部内
Tel (0774) 65-7491 Fax (0774) 65-7069

編集 2013年度 *Cosmos* 編集委員会
グローバル・コミュニケーション学会 運営編集委員会

印刷 株式会社あおぞら印刷
〒604-8431 京都市中京区西ノ京原町15

